

# 2026年度 事業計画

---



学校法人 **共立女子学園**

リーダーシップの共立®

## [目次]

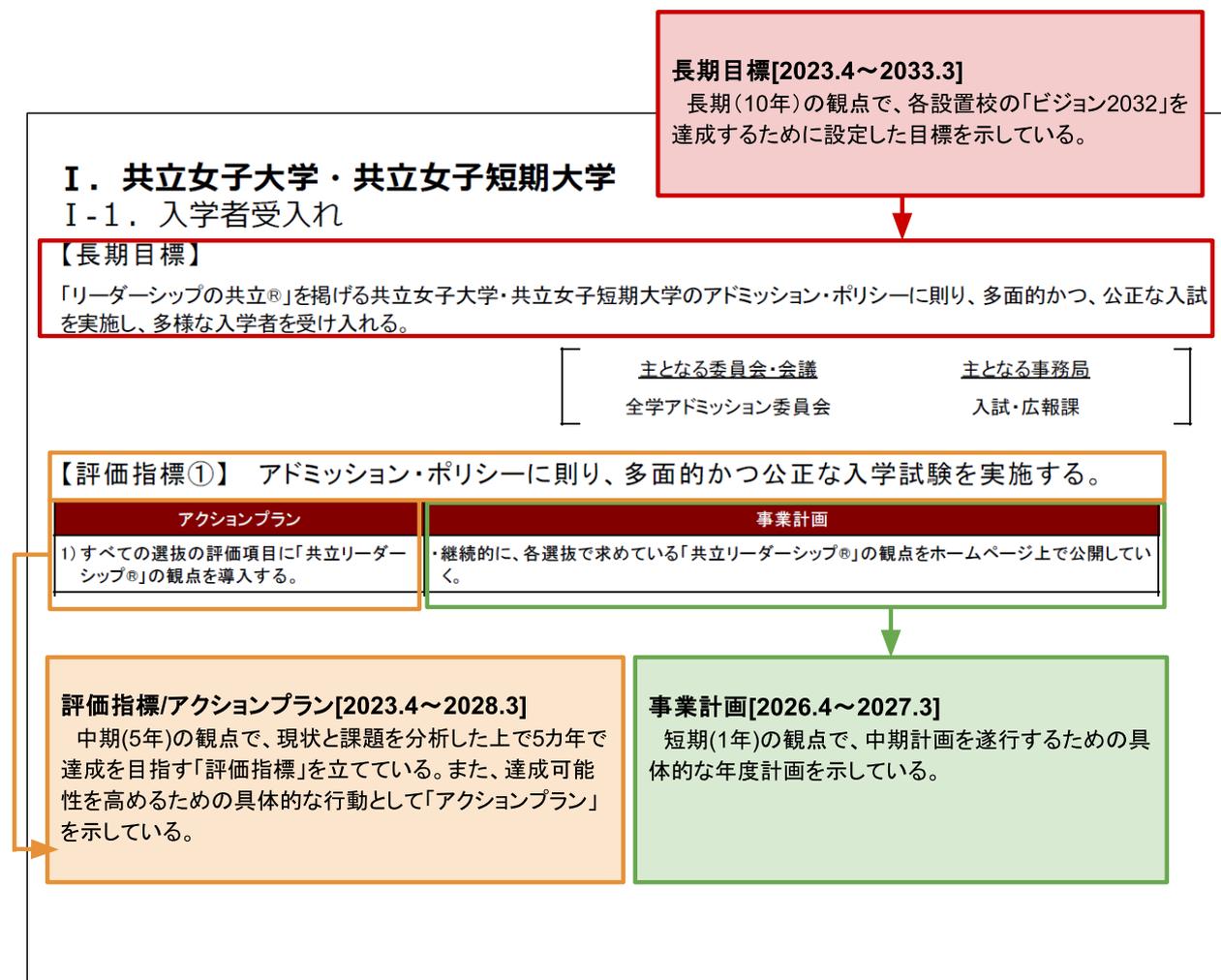
1. 第三期中期計画との連動性と構造.....	2
2. 2026年度事業計画トピックス.....	3
3. 2026年度事業計画について.....	10
I. 共立女子大学・共立女子短期大学.....	10
I-1. 入学者受入れ.....	10
I-2. 教育・研究.....	12
I-3. 国際化.....	17
I-4. 学生生活.....	18
I-5. 学修支援・授業支援.....	21
I-6. キャリア形成支援.....	23
I-7. 社会連携・貢献.....	25
I-8. ブランディング・広報.....	27
I-9. 内部質保証.....	28
I-10. 管理運営.....	29
II. 共立女子中学高等学校.....	30
II-1. 入学者受入れ.....	30
II-2. 教育改善・教育の質的向上.....	31
II-3. 生徒指導・進路支援.....	32
II-4. 管理運営.....	34
III. 共立女子第二中学校高等学校.....	35
III-1. 入学者受入れ.....	35
III-2. 教育改善・教育の質的向上.....	36
III-3. 生徒支援・進路支援.....	38
III-4. 管理運営.....	40
IV. 共立大日坂幼稚園.....	41
IV-1. 園児募集・園児確保.....	41
IV-2. 教育改善・教育の質的向上.....	42
IV-3. 保護者との連携・協力.....	43
IV-4. 管理運営.....	44
V. 学園.....	45
V-1. 財政.....	45
V-2. 組織・人材.....	46
V-3. 施設設備.....	48
V-4. 法人ガバナンス.....	50
3. 2026年度予算の概要.....	51
(1)2026年度予算編成方針.....	51
(2)資金収支予算(表1).....	51
(3)事業活動収支予算(表2).....	52
(4)中期計画予算(表3).....	52
表1 資金収支予算書.....	53
表2 事業活動収支予算書.....	54
表3 中期計画予算.....	55
【付録】	
評価指標一覧表.....	56

# 1. 第三期中期計画との連動性と構造

第三期中期計画の構造は、10年後にどのような大学・短期大学、中学高等学校、第二中学校高等学校又は幼稚園でありたいかを示した「ビジョン2032」、ビジョンを達成するための「長期目標」、長期目標ごとに5年間のKPIを定めた「評価指標」、評価指標の達成のために具体的に何をするかを明らかにした「アクションプラン」となっております。また、第三期中期計画に基づき、単年度で実施する計画をまとめたものが「事業計画」です。

第三期中期計画と事業計画の連動性を高め一体的に進めていくことで、変化の激しい時代においても経営の基軸を見失うことなく、年度計画、ひいては第三期中期計画を達成していきます。

## 【本書での表記の仕方】



[→[第三期中期計画はこちら](#)]



## 2. 2026年度事業計画トピックス

### I. 共立女子大学・共立女子短期大学

#### I-1. 入学者受入れ

⑥入学前・選抜時・入学後データを分析し、入学者選抜を不断に改善する。

### 【データで推進する総合型選抜の改革】

・2025年度入試より導入した総合型選抜 基礎力判定方式についてデータ分析・検証を行い、他大学動向も踏まえ、早期進学意向に対応した拡充・改編を行う。

### I. 共立女子大学・共立女子短期大学

#### I-2. 教育・研究

③全学教育推進機構は共立女子大学・共立女子短期大学の教育の質を高めるために継続的な改革・改善を推進する。

### 【全学教育推進機構の運営基盤整備とリーダーシップ教育の推進】

・全学教育推進機構の安定的かつ継続的な活動のため、組織内の経常的な活動を含めた運用ルール及び運用プロセスを明確にする。  
・2025年度後期からリーダーシップ科目の必修化を開始したことに伴い、適切な授業運営がなされるよう、3つのセンター（共通教育センター、高等教育開発センター、リーダーシップ教育センター）がそれぞれの役割に基づき協働して取り組むことでリーダーシップ教育を実質化する。

### I. 共立女子大学・共立女子短期大学

#### I-3. 国際化

①共立女子大学・共立女子短期大学国際交流方針に基づき、組織的な国際交流支援体制や制度を構築する。

### 【国際交流センターを中心とした支援体制の確立と国際交流の推進】

・2024年度に設置した国際交流センターのもと導入した各種制度を定着させ、安定的な国際交流支援体制の確立を図る。  
・2024年度に新規協定締結をしたUniversity of Lancashire (旧University of Central Lancashire) 及びSWPS大学との留学制度について、周知・利用促進を継続し、安定的な学生派遣を実施する。  
・2024年度に導入したダブル・ディグリー取得留学及び当該留学に伴う奨学金による支援を継続し、学生が安心して留学に挑戦できる環境を維持する。  
・効果的な学内での国際交流イベントや学修会を継続的に開催し、学生の国際交流への関心を着実に高める。



2024年度に実施した教職員によるキャンパス相互訪問

## I. 共立女子大学・共立女子短期大学

### I-4. 学生生活

③担任(アカデミック・アドバイザー)制度をさらに活用し、学生のサポートを教職協働で行う。

## 【アカデミック・アドバイザー制度の周知徹底と運用強化】

- ・教職員に対し、「担任(アカデミック・アドバイザー)による学生指導・相談のガイドライン」の周知を継続する。また、学生に対し、新入生歓迎会等のガイダンスで「担任(アカデミック・アドバイザー)制度」の周知を強化することで、学修行動調査における「担任が分かる学生の割合」(2025年度:93.3%)を94%に向上させる。
- ・学生プロフィールの登録内容の改善と運用の質向上のため、登録内容の調査・分析を実施し、分析内容を踏まえ好事例・改善点について教職員へ周知する。
- ・担任(アカデミック・アドバイザー)による全員面談の実施率を学内で共有するとともに、面談率が低い場合は分析・対策を行い、担任(アカデミック・アドバイザー)制度の質の維持・向上を図る。

## I. 共立女子大学・共立女子短期大学

### I-5. 学修支援・授業支援

①研究科・学部・科、専門・教養を問わず、リーダーシップ教育の学修支援・授業支援を充実させる。

## 【共立リーダーシップ教育の発展と成果の可視化】

- ・「共立リーダーシップGP」をさらに発展させ、各学部等においてリーダーシップ教育の実践が効果的に実施できるよう支援を充実するとともに、各学位プログラムにおける「共立リーダーシップを発揮できる人材を育成するための基本方針」を策定する。
- ・共立女子大学・共立女子短期大学のリーダーシップ教育に関する実践と成果を記録・整理し、リーダーシップ教育の改善充実に資することを目的として、「共立リーダーシップ白書」を作成する。



2024年度に実施したリーダーシップGPシンポジウム

## I. 共立女子大学・共立女子短期大学

### I-6. キャリア形成支援

①リーダーシップ教育等、共立女子大学・共立女子短期大学の強みや特徴を活かした正課内外の教職協働によるキャリア形成支援の取組を推進する。

## 【2028年度カリキュラム変更に向けた体系的キャリア教育科目の設計】

- ・2028年度からのカリキュラム変更に向けて、学生が在学期間を通してキャリア形成していくことができる年次ごとの体系的なキャリア教育科目の概要を確定させる。

## I. 共立女子大学・共立女子短期大学

### I-7. 社会連携・貢献

- ②企業や地域と協働したPBL(課題解決型学修)により、実社会で活かせる「共立リーダーシップ®」を身に付ける活動を充実させる。

## 【地域社会への貢献拡大とプロジェクトのPDCAサイクル構築】

- ・比較的近隣の自治体(特に北関東及び静岡、長野、山梨など)との連携を目指したアプローチを実施する。
- ・地域連携プロジェクトの成果の可視化に向け、参加学生に対するアンケートに基づいた「満足度」「改善点」を含めた成果報告書をまとめる。
- ・全プロジェクト共通の評価項目(例:目的達成度、学生の学びへの貢献度、地域ニーズとの適合性、持続可能性など)を設定し、評価シートに基づき点検・評価する体制を構築する。



2025年度に実施した「地域連携プロジェクト」の様子

## I. 共立女子大学・共立女子短期大学

### I-8. ブランディング・広報

- ③共立女子大学・共立女子短期大学において、総合型選抜・学校推薦型選抜の広報を強化する。

## 【戦略的なオープンキャンパスの実施と入試方式のPR強化による志願者増加】

- ・オープンキャンパスの実施内容・日程の改善に取り組み、来場者数と出願率を向上させる。
- ・総合型選抜基礎力判定方式をさらに発展させ、その特徴をPRすることで志願者を増加させる。

## I. 共立女子大学・共立女子短期大学

### I-9. 内部質保証

- ②自己点検・評価を通じた自律的なPDCAサイクルを推進する。

## 【教学マネジメント強化と自己点検・評価の実質化】

- ・グッドプラクティスや共通課題などに関する対話や意見交換を円滑にするための取組として、「教学マネジメントに関するSD研修会」の実施を継続する。
- ・「全学自己点検・評価委員会」の活動をさらに実質化させるため、各部門の自己点検・評価について全学的な観点での確認に加え、改善に向けたアドバイジング活動を実施する。
- ・授業レベル及び学位プログラムレベルのPDCAサイクルの取組として、教育活動評価の運用について点検・評価し、課題に対する改善を行う。
- ・第4期認証評価を見据えて学生が質保証のプロセスに直接参画する機会をより重視し、「学生評価委員会」を効果的に実施し、公表する。

## I. 共立女子大学・共立女子短期大学

### I-10. 管理運営

- ①学長を中心とした全学的な教学マネジメントを推進する。

## 【学長執行部主導による戦略的な企画立案の推進と教学マネジメント体制の強化】

- ・学長執行部を中心としたマネジメント体制のもと、全学レベルと学位プログラムレベルのそれぞれにおいて戦略的な企画立案を推進する。
- ・学長執行部、研究科長・学部長・科長、学部長補佐、主任、事務局等が協働して教学改革を推進するにあたり、マネジメント体制をより強固にするため、「トップ・ミドルマネジメント研修会」を継続して開催する。

## Ⅱ. 共立女子中学高等学校

### Ⅱ-1. 入学者受入れ

②データに基づいた戦略的な広報活動の下、十分な入学志願者を獲得し、志願倍率を高め、実受験倍率2.5倍以上を維持する。

## 【「共立リーダーシップ®」を軸とした戦略的広報の推進】

- ・リニューアルしたホームページに関するアンケートを実施し、コンセプトが伝わっているか検証する。
- ・学校説明会で「共立リーダーシップ®」を紹介し、探究活動との関連性を伝える。
- ・PR委員や生徒会執行部の生徒を中心とし、在校生が受験生に「共立リーダーシップ®」を紹介するイベントを実施し、この活動をホームページ及びSNSで広報する。
- ・これまでのSNSでの発信について検証し、利用者の傾向を分析することで効果的な広報活動を実施する。



リーダーシップ教育の活動の様子

## Ⅱ. 共立女子中学高等学校

### Ⅱ-2. 教育改善・教育の質的向上

②視野を広げる教育を推進し、全生徒が「共立リーダーシップ®」を身に付け発揮する。

## 【中学・高校一貫のリーダーシッププログラムと生徒意識調査の実施】

- ・「共立リーダーシップ®」に関する生徒意識調査を実施する。
- ・中学1年生から高校1年生を対象に共立女子大学と連携した企画を実施する。
- ・高校2年生に「共立リーダーシップ®」の発展的なプログラムを実施する。

## Ⅱ. 共立女子中学高等学校

### Ⅱ-3. 生徒指導・進路支援

①学校活動(部活動、行事含む)の中で自分らしいリーダーシップを発見し、磨いて、発揮できるように指導・支援する。

## 【生徒主体の行事企画・運営の支援体制の検討】

- ・生徒会主体の行事の時期や企画・運営に関して、生徒がより主体的に活動できるよう支援体制を検討する。

## Ⅱ. 共立女子中学高等学校

### Ⅱ-4. 管理運営

①生徒・保護者の共立女子中学高等学校に対する満足度を向上させる。

## 【デジタルツールを活用した情報発信強化と保護者との連携強化】

- ・ホームページやSNSを活用し、保護者にもわかりやすい学校活動の情報発信を行う。
- ・新しい校務システムによる連絡ツールを活用し、保護者との連携を強化する。

### Ⅲ. 共立女子第二中学校高等学校

#### Ⅲ-1. 入学者受入れ

①入学定員の確保を目指し、着実に入学者数を増加させる。

## 【2027年度入試に向けた戦略的広報活動の展開】

- ・2027年度入試において、2026年度入試の結果を踏まえ、生徒が主体となった説明会や教員の塾訪問等を通じて共立女子第二中学校の魅力を広くアピールし、達成に及ばなかった2023年度の目標値(実出願者数170人、入学者数90人)を達成する。

### Ⅲ. 共立女子第二中学校高等学校

#### Ⅲ-2. 教育改善・教育の質的向上

①共立女子第二中学校は、基礎学力を定着させるために生徒の学習習慣の定着、学習意欲の向上を図る。

## 【リーダーシップ教育の可視化と全教員による指導体制の構築】

- ・生徒が「共立リーダーシップ®」の意義を理解し身に付けることができるよう、目指すリーダーシップ教育を可視化し全教員が一丸となって指導できる校内の体制を構築する。

### Ⅲ. 共立女子第二中学校高等学校

#### Ⅲ-3. 生徒支援・進路支援

②生徒会・委員会・クラブ等の活動において、生徒の自主性を引き出し、一人ひとりの能力を発揮できる機会を増やすことで、自己肯定感を高めていく。

## 【生徒会や委員会活動の活性化とリーダーシップの涵養】

- ・生徒会役員会と各委員会の機能や活動の向上に向け、一人ひとりが意識すべきこと等を丁寧に説明する。これにより、生徒の自治活動の活性化及びリーダーシップの涵養を図る。
- ・生徒一人ひとりの意見を生徒会役員・委員会が中心となって取りまとめ、学校生活の充実に向けた活動を積極的に支援していく。



2025年度生徒会役員会の活動の様子

### Ⅲ. 共立女子第二中学校高等学校

#### Ⅲ-4. 管理運営

②スクール・ポリシーに基づいた特色ある教育を展開するため、教職員の適切な配置と資質向上を図る。

## 【組織的な教員研修と指導力の強化】

- ・学園内外から講師を招いた研修を含め、研修職員会議を実施する。
- ・校内に「授業」並びに「共立第二中学校高等学校の将来構想」に関する研修部会を立ち上げ、定期的に研究協議の場を設置・実施する。
- ・教員の授業改善の意識を高めるため、管理職による授業観察や助言の機会を年間を通して設ける。
- ・多様化する生徒の特性に対応するため、特別支援委員会を機能させ、丁寧な指導体制を構築・実施する。

#### IV. 共立大日坂幼稚園

##### IV-1. 園児募集・園児確保

②教育方針に共感する志願者を得るために適切かつ効果的な広報を展開する。

### 【リニューアルホームページの運用状況点検】

・2025年度にリニューアルしたホームページを点検する。



リニューアルした幼稚園ホームページに掲載した「ようちえんマップ」

#### IV. 共立大日坂幼稚園

##### IV-2. 教育改善・教育の質的向上

①幼稚園教育要領に定義されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置き、主体的・対話的な学びの中で、一人ひとりの個性に寄り添いながら、「リーダーシップの芽」を育むための支援を行う。

### 【遊具の点検結果に基づく修繕・整備計画の実行】

・園庭の固定遊具の点検結果に基づき改善計画を立案し、修繕や整備を実施する。

#### IV. 共立大日坂幼稚園

##### IV-3. 保護者との連携・協力

①保護者とのコミュニケーションの中で把握した課題の改善を行い、その活動を発信することで、幼稚園と家庭が一体となる取組を進める。

### 【学校評価アンケートの妥当性検証】

・学校評価アンケートの内容が教育活動と見合っているか精査する。

#### IV. 共立大日坂幼稚園

##### IV-4. 管理運営

①法人の経営課題や幼稚園の課題について教職員一人ひとりが迅速かつ正確に共有し、「共立大日坂幼稚園ビジョン2032」達成に向けて教職員一体となって取り組む。

### 【施設設備の改善計画の推進】

・施設設備の整備について、改善計画を検討し進める。

## V. 共立女子学園

### V-1. 財政

①予算の配分と執行管理を適切に行い、決算において基本金組入前当年度収支差額を収入超過にする。

## 【予算執行管理の適正化と経常的な収入超過の維持】

- ・経常的な活動において、予算執行管理を適切に行い、収入超過を維持する。

## V. 共立女子学園

### V-2. 組織・人材

②公平で透明性のある人事評価制度を確立する。

## 【公平性・透明性の高い人事評価制度の整備と質的向上】

- ・公平で透明性のある人事評価制度を整備・運用する。
- ・PDCAサイクルを回して人事評価制度の質を向上させる。
- ・評価者研修を実施する。
- ・職務限定職員及び嘱託職員も専任職員の評価制度に倣った評価制度の導入を検討する。

## V. 共立女子学園

### V-3. 施設設備

①中長期的な施設設備整備計画に基づき、計画的な修繕及び改修を実施する。

## 【機能強化と安全確保のための施設設備整備】

- ・神田一ツ橋キャンパスについては、収容定員増加や新学部設置に必要な設備の導入、本館照明設備のLED化、染織文化財修復工房の設置、本館プロジェクターの更新を実施する。
- ・八王子キャンパス、各研修センターについては、老朽箇所への補修など、教育環境の安全性を担保する整備を実施する。

## V. 共立女子学園

### V-4. 法人ガバナンス

①ステークホルダーの信頼を確保し、教育研究活動の一層の推進を図るため、最適なガバナンス体制を確立する。

## 【内部統制システムの具体的構築と監査・リスク管理体制の充実】

- ・内部統制システムに基づき整備した各種規程の体系を踏まえ、内部統制体制の具体的な構築を進める。
- ・監査及びリスク管理体制の一層の充実を図るため、理事等による業務執行の状況が監事に適切に報告される仕組みを構築する。

# 3. 2026年度 事業計画について

## 1. 共立女子大学・共立女子短期大学

### 1-1. 入学者受入れ

#### 【長期目標】

「リーダーシップの共立®」を掲げる共立女子大学・共立女子短期大学のアドミッション・ポリシーに則り、多面的かつ、公正な入試を実施し、多様な入学者を受け入れる。

主となる委員会・会議 全学アドミッション委員会	主となる事務局 入試・広報課
----------------------------	-------------------

#### 【評価指標①】 アドミッション・ポリシーに則り、多面的かつ公正な入学試験を実施する。

アクションプラン	事業計画
1) すべての選抜の評価項目に「共立リーダーシップ®」の観点を導入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的に、各選抜で求める「共立リーダーシップ®」の観点をホームページ上で公開する。</li> <li>新たに導入した年内学力入試（総合型選抜）について、学力の3要素とアドミッション・ポリシーの関連性をホームページ上で公開する。</li> </ul>
2) 入試ミスの生じない実施体制を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>科目ごとの特性に応じて外部発注の活用及び事前・事後のチェック体制を構築し、2027年度一般選抜に向けた準備を行う。</li> </ul>
3) 多様な背景を持った受験生を対象とする選抜方式を導入し、多様な入学者を受け入れる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童養護施設等出身者特別選抜について、2026年度入試における入試結果及び入学手続状況を踏まえ、募集・実施から入学手続までを円滑に進行する。</li> <li>多様な入学者の受入れについて、入学者選抜における可能性を検証する。</li> </ul>
4) 新学習指導要領に基づき入試科目の対応をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部発注や事前・事後チェックのスキームを活用することで、新学習指導要領に基づいた出題範囲による作問を行う。</li> </ul>
5) 一般選抜における多面的評価を継続的に導入し、多様な入学者を受け入れる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般選抜と同様に学力の3要素のうち「知識・技能」の評価に重点を置きつつ、事前課題等による多面的評価を実現する「総合型選抜 基礎力判定方式」を導入したことから、一般選抜とともに本方式についても多面的評価と多様な入学者の受け入れの観点で協議・検討する。</li> </ul>

#### 【評価指標②】 共立女子大学は、入学者数を適切に管理し、入学者の質を保持する。

アクションプラン	事業計画
1) 入試のWEB化を進め、戦略的に志願者数確保を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>WEB出願から入学手続まで対応した「UCARO（ウカロ）」システムについて、新入試制度に対応した改修を行い、利便性の高い出願サイトを受験生に提供する。</li> </ul>
2) 継続的な志願者を送り出す連携校を増やし、安定的な志願者数を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携校入試や高校の探究学習を活用した入試について、高大連携協定校と探究活動における課題について意見交換することで、連携協定校との関係性深化を図るとともに、入試への活用可能性を検証する。</li> </ul>

#### 【評価指標③】 共立女子短期大学は、総合型選抜・学校推薦型選抜に重点を置きながら、一般選抜も含め入学定員を充足する。

アクションプラン	事業計画
1) 受験生確保に資する総合型選抜のあり方を年度ごとに検証し、柔軟に制度を改編する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>短期大学個別相談を積極的に活用し、総合型選抜の受験につなげるとともに、総合型選抜の日程や試験方法について検証し更新する。</li> </ul>
2) 新規指定校の拡充により入学者数増加を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携校との協議から得た短期大学進学者の特性や傾向を踏まえ、より適合した指定校選定を行う。</li> </ul>

#### 【評価指標④】 共立女子大学大学院は、諸施策を実行して、入学者を増加させる。

アクションプラン	事業計画
1) 共立女子大学大学院への学内進学を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年度入試を踏まえ、募集要項の改善や応募資格の検証と更新を行う。</li> </ul>
2) 多様な大学院受験生（一般、内部進学者、社会人、留学生）のニーズに合わせた入試方式・試験科目を導入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年度入試を踏まえ、特に大学院一般選抜における試験科目（内容や科目数）の妥当性について各研究科と協議を行い、適宜改編する。</li> </ul>

**【評価指標⑤】** 併設校との連携を深め、共立女子高等学校、共立女子第二高等学校出身者の入学率を上げる。

アクションプラン	事業計画
1) 高大連携により、共立女子高等学校・共立女子第二高等学校(共立進学コース)からの進学に最適な入試制度を確立する。	・2025年度の併設高校との協議を踏まえ、併設高校特別推薦入試の改編を検討する。

**【評価指標⑥】** 入学前・選抜時・入学後データを分析し、入学者選抜を不断に改善する。

アクションプラン	事業計画
1) データ分析に基づき、一般選抜入試制度の改編を行い恒常的な志願者数確保を目指す。	・一般選抜全学統一方式に導入したスカラシップ奨学生制度について、入試結果及び入学手続状況を踏まえ、募集・実施から入学手続までを円滑に進行する。
2) 早期進学意向の高まりを踏まえ、データ分析に基づいて総合型選抜・学校推薦型選抜の拡充・改編を図る。	・2025年度入試より導入した総合型選抜 基礎力判定方式についてデータ分析・検証を行い、他大学動向も踏まえ、早期進学意向に対応した拡充・改編を行う。

## 1-2. 教育・研究

### 【長期目標】

各研究科・学部・科で研究活動に基づいた専門的な知識・技能を教授し、所属に関係なく全学生が「共立リーダーシップ®」を発揮できるようにする。

<p><u>主となる委員会・会議</u></p> <p>研究科長・学部長・科長会 全学教育推進機構 総合文化研究所 研究推進センター</p>	<p><u>主となる事務局</u></p> <p>教務課 大学企画課 教育学術推進課</p>
--	--

### 【評価指標①】 学修者本位の教育を実現するために、カリキュラム・マネジメントを徹底し、順次性ある体系的な教育課程を編成する。

アクションプラン	事業計画
1) 学修者本位のカリキュラム編成の実現のため、カリキュラム・マネジメントの運用を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度までに整理した各学部・科の教育課程に関する課題、及び科目数・コマ数の算出結果を踏まえ、教育課程編成の適正化に向けた改善計画の実施状況を確認し、その成果を検証する。</li> <li>・カリキュラム・マネジメントの観点に基づく運用の定着度を点検し、運用上の課題と改善方を明示する。</li> <li>・各学部・科やスタッフ・ディベロップメント(SD)活動と連携し、カリキュラム・マネジメントを組織的に運用するための枠組み(会議体・年次点検の手順等)を整備する。</li> <li>・適正な科目数・コマ数の設定ルールに基づき、教育課程構成や教員配置(専任・非常勤比率)の妥当性を検証し、必要に応じて改訂指針を示す。</li> <li>・学修者本位の教育課程実現に向け、学生の学修成果、意見、要望等をカリキュラム改善に反映する仕組み(アンケート分析、授業改善報告書等)を構築する。</li> </ul>

### 【評価指標②】 教員組織の編成方針に基づき、適正に教員を配置する。

アクションプラン	事業計画
1) 各学部・科の専門科目及び教養科目の科目数等を整理し、設置科目における教員の責任体制を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度までに提示した各学部・科の主要授業科目案および責任体制案の実施状況を確認し、現行カリキュラムにおける責任教員配置の妥当性と運用上の課題を検証する。</li> <li>・責任教員制の運用状況(授業設計、到達目標設定、成績評価の一貫性、授業改善の進捗)について、年度点検及び報告書を通じて確認・分析する。</li> <li>・専任・非常勤教員の担当比率に基づき、教育課程全体としての教員配置の最適化方針を整理し、各学部・科にフィードバックする。</li> <li>・教養教育及び専門教育双方における責任体制を統一的に整理し、共通的な「責任教員マニュアル(仮称)」を策定・周知する。</li> <li>・責任教員を中心とした授業改善サイクル(授業設計→実施→点検・評価→改善)を各学部・科において運用できるよう、年次点検フォーマットを整備する。</li> </ul>

### 【評価指標③】 全学教育推進機構は共立女子大学・共立女子短期大学の教育の質を高めるために継続的な改革・改善を推進する。

アクションプラン	事業計画
1) 機構、各センターの業務を推進するための組織を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学教育推進機構の安定的かつ継続的な活動のため、組織内の経常的な活動を含めた運用ルール及び運用プロセスを明確にする。</li> <li>・2025年度後期からリーダーシップ科目の必修化を開始したことに伴い、適切な授業運営がなされるよう、3つのセンター(共通教育センター、高等教育開発センター、リーダーシップ教育センター)がそれぞれの役割に基づき協働して取り組むことでリーダーシップ教育を実質化する。</li> </ul>

**【評価指標④】** 研究科・学部・科、専門・教養を問わず、学生が「共立リーダーシップ®」を身に付け、発揮できる科目を充実させる。

アクションプラン	事業計画
1) リーダーシップ教育の手法を取り入れた科目を拡充する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ファシリテーション」科目の受講生及び「課題解決のためのリーダーシップ入門」の授業運営サポートを行うラーニング・アシスタント・アプレンティス(LAA)の学生情報を収集することで、インプットとしてのリーダーシップ教育からアウトプットとしてのリーダーシップ力発揮への継続性と教育効果を検証する。</li> </ul>
2) 教養教育科目の充実を通して、すべての学生が「共立リーダーシップ®」を身に付ける科目を受講する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「課題解決のためのリーダーシップ入門」については、初年度の授業における結果(授業アンケート、教員ヒアリング、成績分布など)を分析し、教育効果を検証する。</li> <li>「課題解決のためのリーダーシップ入門」の授業運営上の課題(クラス規模、教員配置、教材活用等)を整理し、改善策を検討する。</li> </ul>

**【評価指標⑤】** 各研究科・学部・学科における自己点検・評価をもとに、特色ある教育・研究活動を行う。

アクションプラン	事業計画
1) [家政学研究科] 家政学に関する専門的能力に加え、高度な汎用的能力を培う組織的かつ学際的な教育・研究(活動)を行い、アセスメントプランを実施して継続的な改善に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づいたカリキュラムにおいて、アセスメントプランにより教育・研究活動を評価し、継続的な改善に取り組む。具体的には、学位論文審査基準やルーブリックを用いて学位論文を評価し、学生の学修成果の可視化を通して達成状況を点検する。</li> <li>家政学研究科の各専攻の枠組みを越えた連携を促進する共通科目「家政学総合研究」の実施と、修士論文発表会等での研究交流会の開催を通して、文理融合の学際的な教育研究をさらに推進する。</li> </ul>
2) [家政学部] 家政学部は被服学科・食物栄養学科・児童学科の3学科体制となるため、生活者の視点に立った学問を追求する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年度に児童学部が開設されるが、2025年度の活動を継続しつつ、被服学科、食物栄養学科、児童学部児童学科の教員間の横断的な連携を強化する。特に、「共立リーダーシップ®」を涵養する子育て広場「はるにれ」において、家政学部被服学科、食物栄養学科、建築・デザイン学部建築・デザイン学科、児童学部児童学科の学生ボランティアの協働活動を支援する。また、家政学部各学科と建築・デザイン学部の教員による親講座については、利用者アンケートの結果、高い評価を得ているが、さらに利用者のニーズを鑑みながら改善していく。</li> </ul>
3) [家政学部被服学科] リーダーシップ教育を強化し、学科の特色を反映する教育研究環境の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教養教育科目の「課題解決のためのリーダーシップ入門」と学科専門教育科目の実験・実習系科目におけるグループワークや「被服学ゼミナールA・B」「卒業制作」等のPBL(Project-Based Learning)との連携を図り、ディプロマ・ポリシーに掲げるリーダーシップを養成する学科専門教育を推進する。</li> <li>「共立リーダーシップ®」に関する能力の評価には、社会人基礎力調査(PROG)、カリキュラムマップに基づく評価、リーダーシップ教育センターの教材などを活用する。</li> <li>2026年度に開始するカリキュラムの目指す各コースの人材養成目的を達成するため、専任教員及び非常勤講師からなる組織を編成する。非常勤講師担当科目については責任教員が連絡調整を行い、組織的な教育に取り組む。</li> <li>設備、備品などの教育研究基盤について整備計画を進め、本学の特色である共立リーダーシップ教育、及び、被服学科の特色である伝統的な服飾文化やデジタル系の文理横断・融合型の教育研究を充実させる。また、染織文化財保存修復室を設置して美術館・博物館所蔵品の修復を進め、伝統的な服飾文化に関する教育を強化する。</li> </ul>
4) [家政学部食物栄養学科] 主体的な学修意欲を高めるべく自らが食のエキスパートであることをより意識させ、共立女子大学と社会との連携を強化し、日々発展する科学技術に適應できるよう、学生の学カレベルを充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格取得のサポート体制を整える。</li> <li>オープンキャンパスにおいて、食物学専攻と管理栄養士専攻の違いや魅力を伝える。食物栄養学科のInstagramなどSNSでの情報発信を継続的に行うことで、認知度の向上を図る。</li> <li>食の専門家や卒業生が講師を務める食物学特別講演会を前期と後期の年2回実施する。</li> </ul>
5) [家政学部児童学科/児童学部] 児童学に関する専門科目を学ぶ楽しさと意義を発見するとともに、現代の子どもや保護者を取り巻く社会状況を理解し、それに対応できる保育者、教育者として貢献できるよう、学生の知識・能力と意欲を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>4年間を見通したキャリア教育を実施する。入学後に「児童学基礎演習」や「児童学を学ぶ」などの授業科目とも連動し、学生が具体的な将来像を描き、履修モデルを選択して意欲的に4年間の学修を進められるようにする。また、卒業時の免許・資格を必要とする就職進路へのサポートを継続する。</li> <li>保育・教育実習支援ラボでの授業実践を推進する。模擬授業室に備えたICT機器やデジタル教科書などを活用し、現代の学校教育における課題に対応できる教員養成を行う。また、模擬保育室での授業実践を通じて、質の高い保育・教育者の養成を行う。</li> <li>絵本作家の長谷川義史氏を客員教授として招聘し、子育てひろば「はるにれ」や併設幼稚園、地元書店との協働などによる特別プログラムを開催する。前期授業と後期授業との関連を学生に明示し、保育者・教育者としての専門性の向上を図る。</li> </ul>

アクションプラン	事業計画
6) [文芸学研究科]研究活動の活発化と成果の可視化を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去の文芸学研究科修士論文の共有、公開に関する課題を確認し、今後の対応方法について具体的な検討を進める。</li> <li>研究科内で修士論文を閲覧できるように整備する。</li> <li>2023年度から3年間の卒業時アンケートを分析し、研究環境についての満足度が向上しているかを確認し、次年度に改善する点を見出す。</li> </ul>
7) [文芸学研究科]研究効率の向上のため、研究に打ち込める環境の充実を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化した自習室の備品を整える。</li> <li>大学院の授業を実施する演習室の環境を整える。</li> </ul>
8) [文芸学部]カリキュラム改定を行う。科目の改廃のみならず「主専攻・副専攻制」(仮称)を導入し「何が学べるか」をわかりやすくする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たなディプロマ・ポリシーを学部全体で踏まえたうえで、新カリキュラムを完成させる。</li> <li>学部の学びをよりアクティブなものにすることを旨とし、フィールドワークや創作に重きを置いた活動を推進し、リーダーシップ教育の充実を図る。</li> <li>「メジャー・サブメジャープログラム」導入によって文芸学部生の履修が一定のまとまりを得られるものへと変化がみられるかどうか確認する。</li> </ul>
9) [国際学研究科/国際学部]2023年度より導入される学部、研究科の新カリキュラムの効果、成果についてデータ等を用いて検証することによって、必要な改善を実施につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の履修動向などを確認して、新カリキュラム・制度の効果検証を行う。</li> <li>新カリキュラムの完成年度を見据えて、具体的な見直しの必要性について、2025年度に引き続き検討する。</li> <li>ホームページ、パンフレット、オープンキャンパスなどの広報の機会に、在校生、卒業・修了生などをロールモデルとして紹介し、訴求力と認知度のさらなる向上を図る。また、リニューアルした、パンフレットやポスターを活用したPRを進める。</li> </ul>
10) [国際学部]「世界にアンテナを張る」を合言葉に、それに対応する新たな試みを入学試験、入学前教育、さらに入学後の学修において実施し、学修意欲の向上と対外的な訴求力の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ニュース時事能力試験」、「世界遺産検定」の実施を継続し、受験者数の増加、受験級の向上、特に低級における合格率の増加を図る。</li> <li>「ニュース時事能力試験」、「世界遺産検定」について、学部カリキュラムとの連動・連携を学生に周知する。</li> </ul>
11) [国際学部]GSEプログラムや留学支援により異文化環境でリーダーシップを発揮できる人材を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>GSEプログラム履修者の英語外部検定試験(TOEIC等)の結果を基に、同プログラムの総合的評価や学部の教育改善を行う。</li> <li>インクルーシブで効果的なリーダーシップの育成に向けて、GSEプログラムにおけるラーニング・ファシリテータ及びブチューデント・アシスタントを活用するとともに、GSEカウンセリングを推進する。</li> <li>志願者の増加につなげるため、GSEプログラムのメリットや成果を積極的に発信する。GSE創設10周年を機にウェブサイトを更新し、これまでの成果と今後の展望を発信する。</li> <li>国際事情フィールドワークを2件実施する。また、これまでの成果を積極的に発信する。</li> </ul>
12) [看護学研究科/看護学部]受験生の増加を目指し、学部、研究科の魅力を高めるための、新たな資格取得コース設置の検討、準備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>助産師課程の設置申請を行う。</li> <li>2027年度の助産師課程開設に向けた教育基盤の整備を行う。</li> <li>大学院の新たなキーコンセプトに基づき、臨床、地域、教育の実践現場でリーダーシップを発揮する人材育成に向けた教育課程の見直しと広報活動を行う。</li> </ul>
13) [看護学部]看護シミュレーションルームの運営・活用を軌道に乗せ、コロナ禍における質の高い実践教育を遂行するとともに、VRシステムやシミュレーションシステム等のさらなる整備を進め、特色ある教育活動として発信していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子実習記録システムを試験運用し、今後の導入に向けた適用範囲を検討する。</li> <li>学生の自主学修を支援するシミュレーションルームの予約・運用体制を確立する。</li> <li>2025年度までに開発したシミュレーション教育プログラムを継続的に実施し、教育手法として定着させる。</li> <li>新たな分野において実践力とリーダーシップを育成するためのシミュレーション教育プログラムを開発する。</li> </ul>
14) [看護学部]学生の学力と学修習慣の多様性に対応した新たな教育プログラム、並びに国家試験支援体制を構築・展開することで、学生の学修意欲、主体的学修、学生相互の学び合い、リーダーシップの醸成をはかり、満足度及び標準修業年限卒業率の向上へとつなげる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい教授法等に関するFD(ファカルティ・ディベロップメント)を学部内で企画・実施し、教育内容の充実と教育力の向上につなげる。</li> <li>学生の学修意欲の向上や視野の広がり等に貢献する研修や講演会を企画・開催する。</li> <li>入学前教育を国家試験対策支援プログラムと連動させ、早期からの一貫した主体的な学修を支援する。</li> </ul>
15) [ビジネス学部]2024年度より基礎4分野の教育をより効果的なものとする新カリキュラムを実行する。特に「定性的・定量的情報の分析とマネジメント」能力の向上に重点を置く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>新カリキュラムの実施結果を自己点検し、教育効果を分析・評価する方策を検討する。このために、基礎4分野の学修成果について新カリキュラムの教育方法・評価方法・実施結果を自己点検し、改善作業の準備をすすめる。</li> </ul>
16) [建築・デザイン学部]学びを広く深く身に付ける施策を検討・実行する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>第一線で現役で活躍している実務家を招いたシンポジウムを年2回行う。前期に建築専門の実務家、後期にデザイン専門の実務家を招き、各々の分野の実態を深く学ばせる。なお、建築、デザイン両コースの学生が受講し、アンケートによる振り返りを行う。このように公開講座を企画し、建築・デザイン系の大学に広報することで共立女子大学や建築・デザイン学部のPRを行う。</li> </ul>

**【評価指標⑥】 総合文化研究所を中心として研究活動を支援し、教育への還元を目指す。**

アクションプラン	事業計画
1) 研究活動推進、支援組織として総合文化研究所の活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規程の整合性の確認及び研究環境の改善に継続して取り組む。</li> <li>・オープンアクセス化を見据えて、図書館と連携しながら必要な方針等の継続的な検討を行う。</li> </ul>
2) 研究活動の自己点検・評価の観点として研究活動報告書や教員研究業績を活用する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究環境改善のため、教員研究活動報告書を通して意見収集を行う。</li> <li>・researchmapとの連携を念頭に置き、教員研究業績入力方法を継続して検討する。</li> </ul>

**【評価指標⑦】 競争的資金等の外部研究資金を獲得し、研究活動を充実させる。**

アクションプラン	事業計画
1) 競争的研究を含めた外部研究活動への支援体制を充実する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科研費等の獲得に向けた教員のモチベーション維持を目的として、新規支援策を検討する。</li> <li>・外部支援プログラムの結果検証を継続的に行い、推進プログラムを実施する。</li> <li>・競争的研究費に係る規程を整備する。</li> </ul>
2) 学内外への広報活動を行い、研究推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究に関するホームページの内容を充実させ、広報活動を促進する。</li> </ul>

**【評価指標⑧】 短期大学の社会的要請やニーズを踏まえて、教育課程、教育内容、教育方法の改善・改革を行う。**

アクションプラン	事業計画
1) リーダーシップ教育の発展、資格取得やキャリア教育の充実とともに学外教育活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度に改善・充実した教育内容を中心に点検・評価を行い、リーダーシップ教育の内容、資格取得支援体制を充実させ、共立女子短期大学に求められるニーズを把握し、魅力ある教育内容を実施する。</li> </ul>
2) [生活科学科]2コース制を活かした専門教育科目・授業内容を検討・強化、充実する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定員変更に伴う2027年度の新カリキュラム開始に向けて、授業設計・シラバス・評価方法を整備し、新設の「メディアスタジオ」「デザインスタジオ」を活用した授業の体制を構築する。広報や動画配信を強化し、志願者の増加を図る。</li> <li>・授業担当者間の意見交換を促進し、ICT教育とPBL型授業を融合した実践を通じて、共立リーダーシップ教育の充実を推進する。</li> <li>・ITパスポートやファッションビジネス検定など、キャリア形成に資する資格取得支援を強化し、専門教育科目に関連する新たな資格試験の導入を検討して、学生の進路選択の幅を広げる。</li> </ul>
3) [文科]コース制を活かした卒業後の進路を見通す専門教育科目、授業内容の開発・強化、充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本文化・表現コースでは、「リテラシー」「リテラチャー」「クリエイト」の各領域において、学生の主体的な学びを支援するとともに、学びを愉しみ、自主的に学び続ける意欲を喚起する授業を展開する。学生自身がリアクションペーパーの提出やプレゼンテーション課題への取組等を通して、「ことばを用いて発信すること」の学修成果を可視化できるようにする。</li> <li>・グローバル・コミュニケーションコースでは、1年次上位クラスの英語力の更なる伸長と下位クラスのリメディアル教育に取り組むことで、各レベルにおいてTOEICスコア150点アップを目標とする。</li> <li>・心理学コースでは、受講生の社会福祉への理解を深めるため、専門科目「児童福祉論」「精神障害者保健福祉論」において社会福祉領域の専門家の招聘を検討する。</li> </ul>

**【評価指標⑨】 社会的要請や実学教育の伝統を踏まえた、数理・データサイエンス・AI教育を充実させる。**

アクションプラン	事業計画
1) 数理・データサイエンス・AI教育の強化、充実を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「データサイエンスとICTの基礎」の受講者の学修状況に応じた支援(オンライン質問会、再履修者支援等)を継続的に実施する。</li> <li>・「データサイエンスとICTの基礎」の過去4年分の単位修得率、成績分布、授業評価アンケート結果を分析し、オンデマンド教材や成績評価方法の妥当性を検証する。また、分析結果に基づき、教材構成・課題設計・評価配分の改善を図る。</li> </ul>
2) 文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)」の認定を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」の更新に向けた申請準備を進める。</li> <li>・2025年度以降、順次開講の情報リテラシー科目による「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)」の申請に向けて準備を進める。</li> <li>・教養教育科目における情報リテラシー科目の運営実施体制を構築する。</li> </ul>

【評価指標⑩】 英語教育を充実させ、英語によるコミュニケーション力向上やTOEICのスコアアップを図る。

アクションプラン	事業計画
<p>1) 英語プログラム「KEIT(Kyoritsu English Intensive Training)」の効果的運用による学生の英語力、学修意欲を向上させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業の授業評価アンケートの結果を振り返り、アチーブメントテストのTOEICスコアと併せて分析し、2026年度のガイドラインの点検・評価並びに2027年度ガイドラインの改善を実施する。</li> <li>・各レベルの目標スコアとアチーブメントテストにおける達成者の人数を確認し、結果の検証を行い、プログラムの点検・評価を行う。</li> <li>・プログラムの課題をもとに、KEITの運用方法について検証と見直しを行う。</li> <li>・レベル分けの適切性について検証を行い、2027年度のレベル分けにおける改善点を洗い出す。</li> </ul>

## 1-3. 国際化

### 【長期目標】

学生・教職員が国際交流の場において多様性を認め、尊重し合い、「共立リーダーシップ®」を発揮できるようにする。

主となる委員会・会議

国際交流センター

主となる事務局

学生支援課

### 【評価指標①】 共立女子大学・共立女子短期大学国際交流方針に基づき、組織的な国際交流支援体制や制度を構築する。

アクションプラン	事業計画
1) 国際交流活動の推進を目的とした、具体的な戦略の立案・検証を行う国際交流センター(仮)を設置する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年度に設置した国際交流センターのもと導入した各種制度を定着させ、安定的な国際交流支援体制の確立を図る。</li> <li>・2024年度に新規協定締結をしたUniversity of Lancashire (旧University of Central Lancashire)及びSWPS大学との留学制度について、周知・利用促進を継続し、安定的な学生派遣を実施する。</li> <li>・2024年度に導入したダブル・ディグリー取得留学及び当該留学に伴う奨学金による支援を継続し、学生が安心して留学に挑戦できる環境を維持する。</li> <li>・効果的な学内での国際交流イベントや学修会を継続的に開催し、学生の国際交流への関心を着実に高める。</li> </ul>

### 【評価指標②】 共立女子大学・共立女子短期大学への留学生数を増加させる。

アクションプラン	事業計画
1) 受入留学生数を総数100人にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの受入拡大を目指した取組を基盤に、安定的な受入体制を構築し、持続的な国際交流促進につなげることで受け入れ留学生数50人以上を維持する。</li> <li>・大学ホームページ(英語版)の情報を継続的に更新し、留学生に必要な情報を安定的に提供する。</li> <li>・日本語学校への訪問・広報活動を行い、今後の入試制度における提携可能性について検討する。</li> <li>・留学生を対象とした外部イベントへ継続的に参加することで、大学の認知度向上を安定的に推進する。</li> </ul>

### 【評価指標③】 共立女子大学・共立女子短期大学からの留学者数を増加させる。

アクションプラン	事業計画
1) 共立女子大学・共立女子短期大学の留学プログラムに参加する学生数を200人にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・送り出し学生数拡大を目指したこれまでの取組を基盤に、留学プログラム参加者数150人以上を維持する。</li> <li>・学生の留学への意欲を高めるため、新規施策として、ダブル・ディグリー取得留学経験者などによる留学発表会(仮称)などを実施する。</li> <li>・新たに交換留学協定を締結した大学の説明会など広報活動を行う。</li> </ul>

## 1-4. 学生生活

### 【長期目標】

学生一人ひとりが有意義な学生生活を送ることで、「共立リーダーシップ®」を発揮できるよう、組織的に協働し支援を行う。

<b>主となる委員会・会議</b> 全学学生委員会 こころとからだのサポートセンター	<b>主となる事務局</b> 学生支援課 連携推進課
--	----------------------------------

### 【評価指標①】 学修行動調査における、学生生活支援の満足度の割合を90%以上にする。

アクションプラン	事業計画
1) 適切な学生支援を行い、学生生活支援満足度を90%以上に高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2026年度末に実施する学修行動調査での学生生活支援満足度を90%以上を維持する(2024年度末時点:91.2%)。</li> <li>・StandUp!プロジェクトの「キャンパスライフBrush UP!プロジェクト」を継続し、学生視点を活かした学生生活満足度向上施策を実施する。なお、2025年度活動内容や成果物を全学生に周知するとともに、アンケートを実施し、2026年度のプロジェクト活動の充実を図る。</li> <li>・新入生歓迎会等のガイダンスにて学生サポート体制の周知とともに、新たにkyonetの利用方法の周知もすることで、在学中にkyonetを有効活用できるようにし、学生生活満足度を向上させる。</li> </ul>

### 【評価指標②】 「共立リーダーシップ®」を発揮する機会を増やす。

アクションプラン	事業計画
1) 公認学生団体の代表者のみを対象に行っているリーダーシップ研修を、希望するすべての学生に向けて提供し、参加者数を200人以上に増加させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年度から対象を全学生に拡大したリーダーシップ研修について、参加者を160人以上にする。</li> <li>・「共立リーダーシップ®」を発揮する機会として「Stand Up!プロジェクト」、「共立祭」、「音楽祭」等を継続して実施する。</li> </ul>

### 【評価指標③】 担任(アカデミック・アドバイザー)制度をさらに活用し、学生のサポートを教職協働で行う。

アクションプラン	事業計画
1) 学生プロフィールを利用して適切な情報の共有を行い、能動的な学生支援につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員に対し、「担任(アカデミック・アドバイザー)による学生指導・相談のガイドライン」の周知を継続する。また、学生に対し、新入生歓迎会等のガイダンスで「担任(アカデミック・アドバイザー)制度」の周知を強化することで、学修行動調査における「担任が分かる学生の割合」(2025年度:93.3%)を94%に向上させる。</li> <li>・学生プロフィールの登録内容の改善と運用の質向上のため、登録内容の調査・分析を実施し、分析内容を踏まえ好事例・改善点について教職員へ周知する。</li> <li>・担任(アカデミック・アドバイザー)による全員面談の実施率を学内で共有するとともに、面談率が低い場合は分析・対策を行い、担任(アカデミック・アドバイザー)制度の質の維持・向上を図る。</li> </ul>

### 【評価指標④】 学生生活のダイバーシティ&インクルージョンを推進する。

アクションプラン	事業計画
1) 教職員及び学生が他者と互いに認め合う際の一助となるガイドラインを整え個人の人格・思想・習慣に配慮した支援をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイバーシティ・エクイティ&amp;インクルージョン推進宣言、及びガイドライン整備に向け、他大学事例等の情報収集を継続する。</li> <li>・2024年度より開始した無料ナブキンの配布を、「生理の貧困」への対応と多様性への理解促進のため継続する。</li> <li>・ダイバーシティ・エクイティ&amp;インクルージョンの理解促進のための学生向けの講演会を実施する。</li> </ul>

【評価指標⑤】 学修行動調査における「自身のことを気軽に相談できる関係の人がいる」の割合を高めるため、積極的なコミュニティ形成支援として正課外活動を充実させる。

アクションプラン	事業計画
1) 学生の孤立を防ぎ、頼れる居場所を作る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正課外活動を充実させることで、学修行動調査における「自身のことを気軽に相談できる関係の人がいる」割合を90%以上を維持する。(2024年度結果:91%)</li> <li>・学内公認団体への参加率を29%まで向上させる。(2025年度の参加率:27.5%)</li> <li>・新入生歓迎会では、2025年度参加率(90.2%)を維持することで学生団体への参加につなげる。</li> <li>・学生の居場所としてのコミュニティを提供するため、共立Stand Up!プロジェクトにおいて3つ以上のプロジェクトの始動を維持しつつ、プロジェクトの存在を学生に周知するため、活動を報告するWebページを準備する。</li> <li>・学修行動調査で「自身のことを気軽に相談できる関係の人がいない」と回答した学生に対して、孤立を避けるために学生団体やStand Up!プロジェクト等の提供可能なコミュニティを案内する。</li> </ul>

【評価指標⑥】 フィジカルヘルス及びメンタルヘルスに関わる情報提供を行い、支援が必要な学生に対する相談体制・環境を適切に保つ。

アクションプラン	事業計画
1) 支援が必要な学生の早期発見を行い、適切な修学支援を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「こころとからだのサポートセンター」に属する保健・学生相談・修学支援の学生支援に関わる3機能において、フィジカルヘルス及びメンタルヘルスに関する支援が必要な学生の早期発見、情報共有、それに基づく多角的な支援を実施する。必要に応じて関係教職員との連携も深めることで、全学的な学生支援体制を強化する。</li> <li>・学生に対する心身の健康をテーマとした研修会及び教職員に対する学生支援に関する研修会を開催する。</li> </ul>

【評価指標⑦】 奨学金など経済的支援を充実させる。

アクションプラン	事業計画
1) 学生が修学に専念できるよう経済的な支援をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「資格取得進路支援等給付奨学金」の広報を強化し、全学生を対象としたアンケートを実施して奨学金制度の周知状況を確認する。なお、全学生の6割以上の認知を目標とする。</li> <li>・2025年入学者から対象となる高等教育の修学支援新制度や授業料納入の猶予制度等が開始し、手続きが複雑化するなかで申請者も増加傾向にある状況を踏まえ、周知から手続きまでの運用を整理し、各制度を遺漏なく確実に運用する。</li> <li>・2026年度入学者より「スカラシップ奨学生制度」の運用を開始する。</li> </ul>

【評価指標⑧】 学修行動調査における各号館の学生食堂及び本館4階売店の満足度の割合をすべて80%以上にする。

アクションプラン	事業計画
1) 学生の満足度向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本館、2号館、3号館の学生食堂、カフェ及び売店について学修行動調査の「非常に満足している」「まあまあ満足している」の回答の計が各施設において、全て80%以上を維持する。</li> <li>・学生を対象とした「食堂・売店に関する満足度アンケート」を実施し、その結果に基づいた改善案を検討する。</li> <li>・学生の多様な経験の場として、食堂業者との連携企画を検討、実施する。</li> <li>・新棟建設に向け、学生の満足度の向上に資する施設となるよう、他大学の事例やアンケート結果を参考に検討する。</li> </ul>

【評価指標⑨】 「Society5.0」時代に応じた、学生のニーズに対応した快適な学生生活環境を整える。

アクションプラン	事業計画
1) IRデータやICTを通常時の学生支援や緊急時の安否確認等において有効に活用する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度までのサークル活動における施設利用や備品借用等のWEB申請システムの利用方法についてアンケート調査を行い、その結果に基づき、WEB化の推進並びにWEB上の利用フローの改善を行う。</li> <li>・全学生対象の学内ポータルサイト(kyonet)を用いた安否確認テストを実施し、災害時の安否確認に関する対応意識定着につなげる。</li> </ul>

【評価指標⑩】 研修センターの利用を促進する。

アクションプラン	事業計画
1) 研修センターの認知度や利点を媒体で伝え、学生の利用につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修センターの認知度向上、利用促進を図るため、学内ポータルサイト(kyonet)による案内や研修センター軽井沢寮を利用した学生参加型イベントを実施し、その様子を発信する。</li> <li>・研修センターに関する認知度アンケートを実施し、認知度向上についての検証や利用率向上につなげるための情報収集を行う。</li> </ul>

【評価指標⑪】 学生の帰属意識を向上させるため、卒業生との連携・交流を充実させる。

アクションプラン	事業計画
1) 卒業生と在学生の交流により、在学生在が共立女子大学・共立女子短期大学の魅力をより強く感じる機会を作る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生と在学生の交流機会(OG懇談会等)について、学生が参加しやすいテーマ設定や実施形態により、参加率向上を図る。</li> <li>・卒業生のイベント協力登録を継続的に促進するとともに、入社実績のある企業との連携を深め、多様な分野で活躍する卒業生との交流機会を創出する。</li> </ul>

## 1-5. 学修支援・授業支援

### 【長期目標】

学修成果や教育成果の可視化の結果を活用した継続的な改善活動により、学生が専門的な知識・技能を活用しながら、「共立リーダーシップ®」を発揮できるよう、組織的に協働し支援を行う。

主となる委員会・会議  
全学教育推進機構

主となる事務局  
教育学術推進課

### 【評価指標①】 研究科・学部・科、専門・教養を問わず、リーダーシップ教育の学修支援・授業支援を充実させる。

アクションプラン	事業計画
1) リーダーシップ教育センターと各学部・科等の連携によるリーダーシップ教育を普及・定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「共立リーダーシップGP」をさらに発展させ、各学部等においてリーダーシップ教育の実践が効果的に実施できるよう支援を充実するとともに、各学位プログラムにおける「共立リーダーシップを発揮できる人材を育成するための基本方針」を策定する。</li> <li>共立女子大学・共立女子短期大学のリーダーシップ教育に関する実践と成果を記録・整理し、リーダーシップ教育の改善充実に資することを目的として、「共立リーダーシップ白書」を作成する。</li> </ul>
2) 「共立リーダーシップ®」に関する学修成果・教育成果可視化データの活用促進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学修ポートフォリオ等の学修成果の可視化の状況を踏まえ、学生のリーダーシップの伸長を測定する指標の可視化を行う。</li> </ul>

### 【評価指標②】 建学の精神及び人材養成目的を達成するために組織的・体系的なFD・SD活動を行う。

アクションプラン	事業計画
1) 教育活動・教育支援活動の改善・充実に活用するための、学内の多様なニーズにタイムリーに対応した体系的なFD・SD活動を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学修者本位の教育の実現の観点から、教育活動のデザイン・実践・評価を支援するための各種FD・SDの取組（授業評価アンケート、シラバス等）の体系化と改善・充実に図る。</li> </ul>
2) 「共立リーダーシップ®」を全学の教育活動・教育支援活動に適切に反映するためのFD・SD活動を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「課題解決のためのリーダーシップ入門」の実践結果を踏まえて、共通教育センター・リーダーシップ教育センター・高等教育開発センターが連携して全学的なFD活動を実施する。</li> <li>「共立リーダーシップGP」で実施したシンポジウムからの知見をもとに、高等教育開発センター・リーダーシップ教育センターが連携し、リーダーシップ開発に必要な教育手法に関するFD・SD活動を実施する。</li> </ul>

### 【評価指標③】 学修成果・教育成果を向上させるための環境を整え、制度を構築する。

アクションプラン	事業計画
1) ディプロマ・ポリシーの各観点個人、学部・科（研究科）、共立女子大学・共立女子短期大学ごとに評価する指針や方法を策定し、支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学修到達度シミュレータを活用した各学部・科、研究科の教育課程及びカリキュラム・マップの点検・評価を支援する。</li> </ul>
2) 学生の主体的な学びを促進する環境や情報を提供、評価し、改善する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラーニング・コモンズ及びグループ学修室の利用状況を調査し、ニーズに基づいた学修環境を整備する。</li> <li>利用状況に応じ各学部の予算配分を見直す。</li> <li>図書資料増加に伴う書架逼迫に対応し、適正な蔵書管理と循環を目的とした資料整理を段階的に実施する。</li> </ul>
3) 教育効果を上げるために、教員の指導計画に基づく指導補助者(TA、SA、LA等)が活用できる環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生への手厚い指導体制を確保し、教育の質のより一層の向上を図るという指導補助者制度の趣旨及びこれまでの運用実態を踏まえ、適正かつ効果的に運用されるよう規程・ガイドラインの改善・充実に図る。</li> </ul>

【評価指標④】 「Kyoritsu教学DX推進プラン」に基づき、学修方法・教育方法を充実させる。

アクションプラン	事業計画
1) ICTを用いた様々な授業デザインの提案と効果検証を行う。	・「共立女子大学・共立女子短期大学Kyoritsu教学DX推進プラン」に基づき、対面授業とオンライン授業の利点を活かした授業デザイン等のモデルケースの設計や実際の授業への試験的導入を検討する。
2) Kyoritsu Myパソコンを活用した、いつでもどこでも学修できる環境を整備する。	・「共立女子大学・共立女子短期大学Kyoritsu教学DX推進プラン」に基づき、全学的なKyoritsu Myパソコン必携化を標準ポリシーとして確立し、学生が個人のデバイスで学修することを前提とした教育環境を整備する。

【評価指標⑤】 それぞれのカリキュラムに必要な入学前教育及びリメディアル教育を充実させる。

アクションプラン	事業計画
1) 入学前教育及びリメディアル教育の実施と学修意欲向上の支援体制を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学共通入学前教育について、これまでの実施状況・成果をもとに、教育内容・学修支援体制の充実・改善を図るとともに、入学前教育の実施内容を踏まえたリメディアル教育の内容の充実を図る。</li> <li>・各学部・科における入学前教育の受講状況、活用状況、課題等の現状把握に基づき、大学・短期大学としての入学前教育の基本的な方向性について検討を行う。</li> </ul>

## 1-6. キャリア形成支援

### 【長期目標】

自己と働くことを関係付け意味付けながら、精神的・職業的・社会的に自立し、社会で「共立リーダーシップ®」を発揮できるよう、組織的に協働し支援を行う。

主となる委員会・会議  
キャリアセンター

主となる事務局  
学生支援課

【評価指標①】 リーダーシップ教育等、共立女子大学・共立女子短期大学の強みや特徴を活かした正課内外の教職協働によるキャリア形成支援の取組を推進する。

アクションプラン	事業計画
1) 初年次からのキャリア教育プログラムを構築・拡充する。	・2028年度からのカリキュラム変更に向けて、学生が在学期間を通してキャリア形成していくことができる年次ごとの体系的なキャリア教育科目の概要を確定させる。
2) リーダーシップ教育のインプットとアウトプットできる機会を創出し、社会人基礎力チェック(PROG)の結果と進路先の関係性を分析・活用する。	・共立女子大学・共立女子短期大学におけるコンピテンシーの定義や「共立リーダーシップ®」との関係性、コンピテンシーの伸長方法を明示したガイドラインをもとに正課・正課外問わず学生のコンピテンシー向上に向けた支援を行う。 ・社会人基礎力チェック(PROG)を起点としたデータ分析結果を活用しながら、「共立リーダーシップ®」発揮のための行動変容やキャリア意識の向上を促す。 ・「共立リーダーシップ®」や社会人基礎力チェック(PROG)に関してキャリアにおいて実施している取組内容をHPや企業向けパンフレット等で企業へ周知する。
3) 正課におけるキャリア教育のシラバス案や運営方法を整理・改善する。	・現在の教養教育科目におけるキャリア教育の実施内容及び結果を踏まえた将来的なキャリア教育の再編に向けた検討を進める。

【評価指標②】 キャリア教育及び就職・進学支援を充実させるための組織体制を整える。

アクションプラン	事業計画
1) キャリア支援の目的と方針・役割を明確にした上でキャリアセンター(仮称)を設置する。	・各センター及びキャリアセンター運営委員と連携を図りながらキャリア教育や就職支援の状況を把握し、「共立リーダーシップ®」を発揮しながら学生自身が効果的にキャリアセンターを活用し、進路決定できるよう支援する。
2) 教職員との連携及び学部・科におけるキャリアに関する取組を整理・共有する。	・キャリアセンター運営委員と連携し、初年次教育から進路選択及び決定に繋がる好事例の情報収集を強化し、学内外に広く周知する。
3) 職員間の環境整備として時間と場所を選ばず、誰もが同じレベルでタイムリーに情報を取得し、シェアできるシステムを導入する。	・企業や卒業生の情報を管理・共有し、効果的・効率的な企業との連携や学生の多様なニーズに応えるキャリア支援を行えるシステムを導入する。

【評価指標③】 社会変化や企業ニーズを的確に把握する機会の創出と求人を開拓する。

アクションプラン	事業計画
1) 社会や企業ニーズを的確に把握し、就職率都内女子大TOP5入りを目指す。	・協定を締結する自治体や経済同友会、商工会議所、経営者協会等の経済団体、IT産業懇話会等の業界団体を活用し、最新の社会・企業ニーズを把握する。 ・社会や企業のニーズを学生が体験できる機会として、ワークキャリアプログラムの連携先を拡充する。 ・より多くの学生がワークキャリアプログラム(職場体験・インターンシップ)への理解を深め、参加に繋がる仕組みを構築する。
2) 正課内外(インターンシップや各種講座等)の連携や過去に実績がない企業との接点を拡大する。	・企業訪問等で「共立キャリア・ビジョン」及び「共立キャリア・ポリシー」を周知し、賛同する企業との接点(ワークキャリアプログラム、学校推薦求人等)を拡大する。

【評価指標④】 共立女子短期大学においては、教職協働による進学支援を充実させ、進学率を向上させる。

アクションプラン	事業計画
1) 指定校担当者とのコミュニケーションを強化する。	・学生が希望する指定校先の担当者や情報連携しながら、学生が進路選択しやすい環境を整備する。
2) 学生のニーズを把握した教職協働の進学支援を実施する。	・「共立キャリアビジョン」及び「共立キャリアポリシー」を意識した将来の進路選択に繋がる科目概要を確定させる。

【評価指標⑤】 キャリア支援に関するコンテンツの利用を促進し、卒業時の学修行動調査における就職・進路支援満足度を向上させる。

アクションプラン	事業計画
1) 共立女子大学・共立女子短期大学のキャリア支援の取組における周知を強化するとともに、学修行動調査の結果を反映した講座を運営する。	・キャリアセンターのホームページ等を通じて、キャリア教育やキャリア支援の活動を分かりやすく示し、求人企業や受験生、学生への広報を強化する。

## 1-7. 社会連携・貢献

### 【長期目標】

教育・研究成果を社会に還元し、社会の発展・SDGsの達成に寄与するとともに、社会連携・貢献活動の中で、学生・教職員が専門的な知識・技能を活用しながら「共立リーダーシップ®」を発揮できるよう、組織的に協働し支援を行う。

主となる委員会・会議 社会連携センター	主となる事務局 連携推進課
------------------------	------------------

### 【評価指標①】 社会連携・貢献活動を継続できる組織的な体制を整える。

アクションプラン	事業計画
1) 社会連携センター及び社会連携センター運営委員会において、学内ニーズと連携先の調整、事業活動のプロデュース等を行える体制を整え、全学的な社会連携・貢献活動のためのハブ的機能の確立を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定的な情報共有の場である社会連携センター運営委員会を定期的に開催し、センター員及び学内関係者の意識向上を図る。</li> <li>・社会連携センター運営委員会において、各教員の社会連携活動の事例に関する成果や課題を報告・共有することにより、教員の社会連携に関する資質向上、全学的な活動活性化につなげる。</li> </ul>
2) 社会連携に関する諸活動について、学内・学外への効果的な情報発信・浸透のための体制を整え、全学をあげての取組とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内外への情報発信力を高めるため、ホームページのニュース掲載やイベント募集情報の見せ方を改善する。</li> <li>・学外への周知強化の一環として、プレスリリースなどメディア連携を計画し、年間5件以上プレスリリースを行う。</li> <li>・学内情報発信については、学生向け掲示配信の際に教員にも周知する。</li> </ul>

### 【評価指標②】 企業や地域と協働したPBL(課題解決型学修)により、実社会で活かせる「共立リーダーシップ®」を身に付ける活動を充実させる。

アクションプラン	事業計画
1) 自治体や企業等と連携して社会課題の解決や人材養成を目指した「地域連携プロジェクト」及び各種「社会連携プロジェクト」等を持続可能な形で実施・拡充・推進し、「共立リーダーシップ®」の実践の場とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較的近隣の自治体(特に北関東及び静岡、長野、山梨など)との連携を目指したアプローチを実施する。</li> <li>・地域連携プロジェクトの成果の可視化に向け、参加学生に対するアンケートに基づいた「満足度」「改善点」等を含めた成果報告書をまとめる。</li> <li>・全プロジェクト共通の評価項目(例: 目的達成度、学生の学びへの貢献度、地域ニーズとの適合性、持続可能性など)を設定し、評価シートに基づき点検・評価する体制を構築する。</li> </ul>

### 【評価指標③】 千代田区及び関係団体等を含む行政との連携も含めて、神保町の発展に寄与する共立女子大学・共立女子短期大学になる。

アクションプラン	事業計画
1) 千代田区内及び神保町の諸課題をテーマとした「千代田学」等を実施・推進・拡充する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2026年度から新たに開講する教養教育科目「サービスマーケティング実践演習」において、千代田区と連携した実践的な学びの場を2件以上提供する。</li> <li>・千代田区をはじめとする地域の諸課題をテーマとした取組をさらに拡充し、授業や課外活動との連動を図ることで、大学が地域の発展に寄与する機会を増やす。</li> </ul>
2) 千代田区役所の各部署及び神保町周辺の町会・商店会・関係団体等との関係性を維持・拡充し、千代田区及び神保町で行われる事業・イベント等で展開されるブース等において、共立女子大学・共立女子短期大学の社会連携活動及びSDGsへの取組を積極的に広報する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千代田区及び神保町の関係者との連携をさらに深め、地元イベントや地域活動への参画を継続・拡大する。</li> <li>・学生主体で共立女子大学・共立女子短期大学のSDGsや社会連携の取組を発信する機会を増やし、地域との双方向コミュニケーションを促進する。</li> <li>・地域活性化に関する勉強会などに参加し、意見交換の機会を増やす。</li> </ul>

### 【評価指標④】 大学間連携の活動を積極的に展開する。

アクションプラン	事業計画
1) 千代田区キャンパスコンソーシアムの学生間・教職員間の連携・交流を深め、教育・研究及び正課外活動の質の向上を図るとともに、地域・社会貢献に繋がる事業活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千代田区キャンパスコンソーシアムの中長期計画に沿って、より効果的な事業運営を図る。引き続き、コンソーシアム事業に積極的に参画し、大学間連携を推進する。</li> <li>・神田一ツ橋キャンパス(本館・2号館)を活用したイベントや共同利用事業を継続して実施し、学生・教職員の交流や地域との協働機会を拡充する。</li> </ul>
2) 他大学との大学間連携の可能性について検討・協議できる環境を整え、実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年に包括的連携協定を締結した京都女子大学と連携活動を本格化させる。</li> </ul>

【評価指標⑤】 リカレント教育を充実させ、社会人に特化した体系的なプログラムを構築する。

アクションプラン	事業計画
1)「社会人の学び直し」の観点に立った、体系的なリカレント教育プログラムを構築するとともに、学修歴を証明する仕組みを導入し、適切に運用する。	・既存の共立リカレント教育プログラム及び共立アカデミーについて、運営状況・参加者層など現状と課題を整理し、履修証明プログラムの方向性や各プログラムのあり方について検討する。

## 1-8. ブランディング・広報

### 【長期目標】

「リーダーシップの共立®」をステークホルダーに発信し、共立女子大学・共立女子短期大学の「ブランド」を確立するとともに、学生募集に係る広報を適切に実施し、志願者の増加に努める。

主となる委員会・会議 全学広報委員会	主となる事務局 入試・広報課
-----------------------	-------------------

### 【評価指標①】 「リーダーシップの共立®」というブランドの社会的認知を高める。

アクションプラン	事業計画
1) 広く社会に向けたメディア施策を実行する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「リーダーシップの共立®」の社会的認知向上のため、年間を通して広告を展開する。</li> <li>・リーダーシップ教育に基づく「改革を止めない大学」としての姿勢を継続して表明する。</li> <li>・「リーダーシップの共立®」の確立に向けて、UI(ユニバーシティアイデンティティ)構築を推進する。</li> </ul>

### 【評価指標②】 共立女子大学・共立女子短期大学において、一般選抜の志願者数を増やすブランディング・広報を実施する。

アクションプラン	事業計画
1) 共立女子大学・共立女子短期大学の一般選抜の志願促進につながるブランディング・広報を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公式サイト戦略的リニューアルを実現し、受験生サイトの構築、オウンドメディアによる受験生確保、その他ユーザビリティを向上させる。</li> <li>・共立女子大学・共立女子短期大学で学ぶことができる授業内容や教員等の「学び」をメインとした広報を展開することで、一般選抜受験者および高校1年生・高校2年生の認知拡大を推進する。</li> </ul>

### 【評価指標③】 共立女子大学・共立女子短期大学において、総合型選抜・学校推薦型選抜の広報を強化する。

アクションプラン	事業計画
1) 共立女子大学・共立女子短期大学の総合型選抜・学校推薦型選抜の志願者数を増やすブランディング・広報を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスの実施内容・日程の改善に取り組み、来場者数と出願率を向上させる。</li> <li>・総合型選抜基礎力判定方式をさらに発展させ、その特徴をPRすることで志願者を増加させる。</li> </ul>

### 【評価指標④】 併設校、連携校との関係を強化する。

アクションプラン	事業計画
1) 併設校に対して、共立女子大学・共立女子短期大学の魅力・教育内容について理解を促進する施策を行い志願者数を増加させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・併設各校との協議を基にした学年ごとの進路行事を支援する。</li> <li>・文芸学部・国際学部が推進する併設高校との高大接続連携事業について支援する。</li> </ul>
2) 連携校からの志願者数を増加させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携校の高校生を対象とした取組(サマースクール、連携校模試)を推進する。</li> <li>・連携校合同懇談会にて連携内容を高める。また、連携校合同懇談会が高校間の関係づくりのプラットフォームとなるよう推進する。</li> <li>・新たな連携希望校との協議を進め、連携協定締結を検討する。</li> </ul>

## 1-9. 内部質保証

### 【長期目標】

「共立女子大学・共立女子短期大学ビジョン2032」をステークホルダーと共に実現するため、種々の活動を継続的に点検・評価し、改善・向上に取り組むとともに、説明責任を果たす。

主となる委員会・会議  
全学自己点検・評価委員会

主となる事務局  
大学企画課

### 【評価指標①】 内部質保証システムを適切に機能させて、種々の活動の質を改善・向上させる。

アクションプラン	事業計画
1) 教育・研究水準の向上を図り、その設置目的及び社会的使命を達成するため、自己点検・評価活動を行い、その結果を共立女子大学・共立女子短期大学の充実・改善・改革に活用し内部質保証を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己点検・評価活動を継続して実施し、点検・評価結果を公表する。</li> <li>各部門の点検・評価をもとに全学的な観点で内部質保証推進状況を点検・評価し、継続課題や新たな課題等に対して改善や向上を図る。</li> </ul>
2) 共立女子大学・共立女子短期大学の取組の優れている点や改善を要する点を評価機関による認証評価で確認し、内部質保証を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>共立女子大学・共立女子短期大学ともに、認証評価の結果を踏まえた改善・改革を計画し、実行する。</li> <li>改善報告書の提出に向けて、改善課題への対応を進める。</li> <li>第4期認証評価を見据えて、内部質保証体制の見直しを実施する。</li> </ul>

### 【評価指標②】 自己点検・評価を通じた自律的なPDCAサイクルを推進する。

アクションプラン	事業計画
1) 全学レベル、学位プログラムレベル、授業レベルのPDCAサイクルを推進するとともに、有機的に連携させて、種々の活動の改善・向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>グッドプラクティスや共通課題などに関する対話や意見交換を円滑にするための取組として、「教学マネジメントに関するSD研修会」の実施を継続する。</li> <li>「全学自己点検・評価委員会」の活動をさらに実質化させるため、各部門の自己点検・評価について全学的な観点での確認に加え、改善に向けたアドバイジング活動を実施する。</li> <li>授業レベル及び学位プログラムレベルのPDCAサイクルの取組として、教育活動評価の運用について点検・評価し、課題に対する改善を行う。</li> <li>第4期認証評価を見据えて学生が質保証のプロセスに直接参画する機会をより重視し、「学生評価委員会」を効果的に実施し、公表する。</li> </ul>

### 【評価指標③】 IRを基盤とした意思決定支援を充実させる。

アクションプラン	事業計画
1) エビデンスベーストのマネジメントが行われるように各種情報の可視化・提供を通して意思決定を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>データを集約し可視化・比較等が行えるBIツール(Qlik Sense)について、点検・評価の上、利用者の視点から改善を実施する。</li> <li>大学IRIに関して定期的な研修を受講し、最新情報を取得する。</li> <li>適切なIRデータを提供して、自己点検・評価を効果的に行う。</li> </ul>

## I-10. 管理運営

### 【長期目標】

「共立女子大学・共立女子短期大学ビジョン2032」の達成に向けて、戦略的かつ機動的な管理運営を行う。

主となる委員会・会議 研究科長・学部長・科長会	主となる事務局 大学企画課 連携推進課
----------------------------	---------------------------

### 【評価指標①】 学長を中心とした全学的な教学マネジメントを推進する。

アクションプラン	事業計画
1) 学長を中心とした体制で、戦略的な企画立案、機動的な意思決定及び執行を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学長執行部を中心としたマネジメント体制のもと、全学レベルと学位プログラムレベルのそれぞれにおいて戦略的な企画立案を推進する。</li> <li>学長執行部、研究科長・学部長・科長、学部長補佐、主任、事務局等が協働して教学改革を推進するにあたり、マネジメント体制をより強固にするため、「トップ・ミドルマネジメント研修会」を継続して開催する。</li> </ul>

### 【評価指標②】 共立女子大学・共立女子短期大学の将来構想を検討する。

アクションプラン	事業計画
1) 共立女子大学・共立女子短期大学の将来の方向性を定める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>2027年4月の建築・デザイン学部の収容定員増加に係る学則変更の認可を得る。</li> <li>2027年4月の生活科学科及び文科の収容定員減少に向けた必要書類を整え、文部科学省へ遺漏なく提出する。</li> <li>社会情勢、社会的要請、各学部・科の入学志願動向を踏まえて、中長期的な将来構想の検討を進捗させる。</li> </ul>

### 【評価指標③】 櫻友会との連携を強化する。

アクションプラン	事業計画
1) 共立女子大学・共立女子短期大学及び櫻友会相互の発展のため、連携・協力関係を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>櫻友会との情報交換を引き続き柔軟に行う。</li> <li>ホームカミングデイなど行事への参加機会を提供し、卒業生同士、または在学生や教職員と交流する場を整える。</li> <li>櫻友会からの要望や企画提案について、櫻友会の自主性と主体的運営を尊重しながら支援する。</li> </ul>

## II. 共立女子中学高等学校

### II-1. 入学者受入れ

#### 【長期目標】

「リーダーシップの共立®」を掲げる共立女子中学高等学校の入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)を明示し、方針に基づいた入試により入学者を受け入れる。

主となる委員会・会議 広報部 教務部	主となる事務局 中学高等学校事務室
--------------------------	----------------------

#### 【評価指標①】 アドミッション・ポリシーに基づく入試を実施し、入学定員を充足させる。

アクションプラン	事業計画
1) 受験生に共立女子中学高等学校が期待する生徒像を伝える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アドミッション・ポリシーに関する認知度調査の結果を踏まえ、学校説明会での周知方法について改善する。</li> <li>・スクール・ポリシーの達成状況について、具体的な検証方法を検討する。</li> </ul>
2) アドミッション・ポリシーに基づいた入試を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2027年度から変更予定の「海外帰国生入試」「2/3午後入試」について周知する。</li> <li>・入学後の追跡調査について2025年度に引き続き検討する。</li> </ul>

#### 【評価指標②】 データに基づいた戦略的な広報活動の下、十分な入学志願者を獲得し、志願倍率を高め、実受験倍率2.5倍以上を維持する。

アクションプラン	事業計画
1) 「共立リーダーシップ®」の理念や教育活動の魅力を伝える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リニューアルしたホームページに関するアンケートを実施し、コンセプトが伝わっているか検証する。</li> <li>・学校説明会で「共立リーダーシップ®」を紹介し、探究活動との関連性を伝える。</li> <li>・PR委員や生徒会執行部の生徒を中心とし、在校生が受験生に「共立リーダーシップ®」を紹介するイベントを実施し、この活動をホームページ及びSNSで広報する。</li> <li>・これまでのSNSでの発信について検証し、利用者の傾向を分析することで効果的な広報活動を実施する。</li> </ul>
2) 受験者層の拡充・拡大し、実受験倍率2.5倍以上にする。(※2月1日入試にて計測)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度以降の広報活動について整理し、その効果について具体的な検証方法を検討する。</li> <li>・上位校の併願先として本校が選ばれるよう、入試日程の検討及び塾訪問等による広報活動を強化する。</li> </ul>

## II-2. 教育改善・教育の質的向上

### 【長期目標】

育成を目指す資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)を明示し、生徒の多様な個性を尊重しながら学力を向上させつつ、「共立リーダーシップ®」を発揮する人材を養成する。

<b>主となる委員会・会議</b> 教務部 国際交流部 進路指導部 情報システム管理委員会	<b>主となる事務局</b> 中学高等学校事務室
---	-----------------------------

### 【評価指標①】 カリキュラム・ポリシーの下、カリキュラム・マネジメントを徹底し、グラデュエーション・ポリシーに基づく生徒を育成する。

アクションプラン	事業計画
1) ポリシーに基づく、生徒育成、教育課程の編成が実現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラム・ポリシーに基づき、新カリキュラムを2027年度から実施できるよう準備する。</li> <li>カリキュラム・ポリシーに則した大学の出前講座や実験講座、著名人による講演会を実施する。</li> <li>スクール・ポリシーの達成状況について、具体的な検証方法を検討する。</li> </ul>
2) 生徒の多様な個性を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>入試類型別の定期試験の成績や進学先等の追跡調査及びその検証方法について、新たに導入する校務システムでどのように実現できるか検討する。</li> <li>チューター制度や学習アシスタントの体制を強化し、活用範囲を拡充する。</li> <li>生徒の生成AI活用を促進する方策を検討する。</li> </ul>
3) 生徒にとって効果的な授業運営を検討、実現する。(生徒数、習熟度分け)	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクール・ポリシーの実現に向け、従来の習熟度別授業や教科ごとのクラスサイズについて再検討し、その結果を2027年度からの実施に反映できるよう準備する。</li> </ul>
4) 教育方法に合わせた環境を整備し、教育効果の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育方法に即した学習環境の整備に向け、環境整備計画について、神田一ツ橋キャンパス再構築と関連させて検討する。</li> <li>現状の学習環境の効果的な利用を図るため、教員同士で共有できる「空間」を活用する。</li> </ul>
5) 教育内容を統一化し、カリキュラム・ポリシーに基づいた教育を等しく提供する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>2025年度に引き続き、カリキュラム・ポリシーに基づいた評価基準の点検を行い、その結果を踏まえて新評価基準を策定する。</li> </ul>

### 【評価指標②】 視野を広げる教育を推進し、全生徒が「共立リーダーシップ®」を身に付け発揮する。

アクションプラン	事業計画
1) 「総合的な探究の時間」の授業構築に当たり、大学・企業・地域と連携を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>2026年度より「共立探究実践」を中高一貫のリーダーシップ育成プログラムの最終ステージと位置づけ、内容が有機的に結びつくよう、外部との連携のあり方を含めて検討する。</li> </ul>
2) 「総合的な探究の時間」の授業において、「共立リーダーシップ®」を育む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「共立リーダーシップ®」に関する生徒意識調査を実施する。</li> <li>中学1年生から高校1年生を対象に共立女子大学と連携した企画を実施する。</li> <li>高校2年生に「共立リーダーシップ®」の発展的なプログラムを実施する。</li> </ul>

## II-3. 生徒指導・進路支援

### 【長期目標】

学校活動の中で「共立リーダーシップ®」を発揮することで自己肯定感を高めながら、志望する進路が実現できるよう、組織的に協働し支援を行う。

<b>主となる委員会・会議</b> 教務部 進路指導部 生活指導部	<b>主となる事務局</b> 中学高等学校事務室
--	-----------------------------

**【評価指標①】** 学校活動(部活動、行事含む)の中で自分らしいリーダーシップを発見し、磨いて、発揮できるように指導・支援する。

アクションプラン	事業計画
1) 生徒会や委員会の運営、行事の企画と運営を生徒主体で行えるよう支援する。	・生徒会主体の行事の時期や企画・運営に関して、生徒がより主体的に活動できるよう支援体制を検討する。
2) 生徒のチーム活動に関する教員の指導力、支援力を向上させる。	・生徒の活動に関する指導及び支援について具体的な取組内容を教員間で共有し、その対応を点検できる仕組みを検討する。

**【評価指標②】** 生徒自身の希望を最優先にしつつ、進路支援を充実させ、第一志望への進学率を高める。

アクションプラン	事業計画
1) 生徒が自分に合った入試方法で受験できるようにする。	・生徒・保護者の意識を高めるため、2025年度に引き続き、進路指導部通信「Lighthouse」を通じて、最新の情報や分析等を発信する。 ・卒業生と連携した進路サポートを構築する。
2) 各種データに基づいた適切な進路支援を行う。	・多種多様な進路に対応できるよう、最新情報を学年の教員内で共有しながら、学年ごとの進路支援の在り方を検討する。
3) 生徒のキャリア形成を促進させ、卒業後の進路を明確にする企画を実行する。	・生徒と卒業生の交流の場であるホームカミングデーの実施について2025年度に引き続き具体的に検討する。 ・探究学習やキャリア教育への意識を高めるため、様々な分野の著名な講師による講演会や企業訪問、大学訪問を企画し、実施する。 ・教員の意識を高めるため、時代の変化に適応したキャリア支援に必要な知識やスキルに関する研修会を実施する。
4) 海外大学進学希望者に対する支援を強化する。	・グローバルマインドを向上させるためのガイダンス及びイベントを企画し、実施する。 ・国際的な視野を持つ生徒の育成のため、海外大学進学希望者へのフォロー体制を提携業者と協力し強化する。 ・海外大学に進学した卒業生と、オンライン等を活用した交流の場を設ける。
5) 海外留学に対する支援を行う。	・海外大学への進学を見据え、グローバルな視野の拡大を図るため、生徒を対象とした海外視察や海外研修等の機会の提供について検討する。

**【評価指標③】** 教職員、カウンセラーが保護者と連携し、生徒一人ひとりの状況に応じた生徒指導をする。

アクションプラン	事業計画
1) フィジカルヘルスやメンタルヘルスに対するフォローを整える。	・健康に関する最新情報について、保護者への発信方法を検討する。 ・2025年度に引き続き、多様な生徒をサポートする新たな取組を検討する。
2) 教員、養護教諭、カウンセラーの情報共有方法の徹底やスキル向上を促進する。	・2025年度に引き続き、発達障害に関する知識や情報を教員間で共有し、特別支援についての理解を深める。 ・2025年度に引き続き、支援充実のためのスキルアップ研修を計画し、実施する。

【評価指標④】 共立女子大学・共立女子短期大学をはじめとした大学等との連携・接続を強化する。

アクションプラン	事業計画
1) 共立女子大学・共立女子短期大学の教育研究に触れる機会を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・KWU高大連携プログラムを充実させる。</li> <li>・卒業生による学習支援の方策を2025年度に引き続き検討する。</li> </ul>
2) 他大学との連携、接続を強化し、多様な進路に触れる機会を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高大連携協定を促進する。</li> <li>・生徒だけでなく保護者を対象とした高大連携講座等の情報提供の機会を拡充する。</li> </ul>

## II-4. 管理運営

### 【長期目標】

「共立女子中学高等学校ビジョン2032」の達成に向けて、戦略的かつ機動的な管理運営を行う。

主となる委員会・会議	主となる事務局
総務部	中学高等学校事務室

### 【評価指標①】 生徒・保護者の共立女子中学高等学校に対する満足度を向上させる。

アクションプラン	事業計画
1) 保護者のニーズに合わせ、学校の取組や学校活動についての情報提供を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページやSNSを活用し、保護者にもわかりやすい学校活動の情報発信を行う。</li> <li>・新しい校務システムによる連絡ツールを活用し、保護者との連携を強化する。</li> </ul>
2) 保護者とのコミュニケーションを充実させ、課題把握と改善活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後援会やPTA役員と定期的に意見交換をしていく。また、PTAや面談時のご意見について、検討し、改善すべきところは改善していく。</li> </ul>
3) 生徒の自主的な活動を支援する教育環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の自主的な活動の支援を拡充する。</li> <li>・2025年度に引き続き、外部施設や外部団体、人的リソースの活用について検討する。</li> </ul>

### 【評価指標②】 教育課程・学校活動を向上させるため、教員の能力向上の機会拡大や業務効率化を促進させる。

アクションプラン	事業計画
1) 教育活動に取り組む時間を増加するため、業務軽減を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務効率化を目指し、デジタル出席簿等の導入を進める。</li> <li>・2025年度より試験的に導入した部活動の外部委託の本格運用に向けて体制を整える。</li> </ul>
2) 生徒が「共立リーダーシップ®」を発揮するため、教職員の支援スキルを向上する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当授業にて修得した「共立リーダーシップ®」のスキルを他の業務にも活用し、向上をはかる。</li> </ul>
3) 教育活動へと寄与するため、新たな学習指導方法を学べる研修会を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成の観点から役職等に応じた研修への参加を推奨する。</li> <li>・学内での研修を検討する。</li> </ul>

### 【評価指標③】 学校運営上の危機管理を適切に行い、生徒の安全を確保する。

アクションプラン	事業計画
1) 非常時における対応を教職員間で明確化し共有することで、生徒の心理的安全性を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「危機管理マニュアル」に基づいた訓練を実施する。</li> <li>・多様化するリスクを想定し、「危機管理マニュアル」を検証し、必要に応じて更新する。</li> </ul>
2) 生徒たちの防災意識を高め、有事の際の対応力を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「危機管理マニュアル」を検証し、必要に応じて更新する。</li> <li>・2025年度に引き続き、防災訓練を実施する。</li> </ul>
3) 災害時の対応を保護者へ周知し理解を得ることによって、有事の際のスムーズな対応ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「危機管理マニュアル」を検証し、必要に応じて更新する。</li> <li>・「危機管理マニュアル」の定期的な確認を行うとともに、試行する機会を設ける。</li> </ul>

### 【評価指標④】 学習・教育環境の充実に向けた中長期的な施設設備整備計画を策定する。

アクションプラン	事業計画
1) 学習・教育環境を充実させ、学校運営を適切に行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な学校運営を行うための学習、教育環境の整備について検討し、提案する。</li> <li>・神田一ツ橋キャンパス再構築計画を考慮した施設の整備を検討する。</li> </ul>

### III. 共立女子第二中学校高等学校

#### III-1. 入学者受入れ

##### 【長期目標】

「リーダーシップの共立®」を掲げる共立女子第二中学校高等学校の入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)を発信し、生徒募集に関わる広報を適切に実施し、多様な入試により入学者を受け入れる。

主となる委員会・会議 二中高将来構想委員会 入試広報部 入試制度検討委員会	主となる事務局 第二中学校高等学校事務室
--	-------------------------

##### 【評価指標①】 入学定員の確保を目指し、着実に入学者数を増加させる。

アクションプラン	事業計画
1) 共立女子第二中学校の実出願者数及び入学者数を着実に増加させる。	・2027年度入試において、2026年度入試の結果を踏まえ、生徒が主体となった説明会や教員の塾訪問等を通じて共立女子第二中学校の魅力を広くアピールし、達成に及ばなかった2023年度の目標値(実出願者数170人、入学者数90人)を達成する。
2) 共立女子第二高等学校の入学定員(内部進学者を含めて240人)を確保し、収容定員の充足を目指す。	・2027年度入試において、2026年度入試の結果を踏まえ、生徒が主体となった説明会や教員の塾訪問等を通じて共立女子第二高等学校の魅力を広くアピールし、達成に及ばなかった2023年度の目標値(入学者数200人)を達成する。
3) アドミッション・ポリシーに基づいて、入試制度を充実させる。	・減少する多摩地区の児童・生徒数を踏まえ、共立第二中学校高等学校第一希望生徒が確実に受験できる入試日程を設定すべく、他校の入試日程に関する情報収集並びに検討をする。 ・アドミッション・ポリシーと共立第二中学校高等学校の教育実践を広く小中学生に告知するとともに、説明会等を通じて本校で学ぶ意欲を持つ生徒を受験に結び付ける。
4) 卒業生子女及び転編入生を積極的に受け入れる。	・同窓会と連携し、共立女子第二中学校高等学校のホームページや同窓会誌等を活用した卒業生子女への入試対応の周知を徹底する。 ・各種広報媒体や共立女子第二中学校高等学校のホームページ等を活用し、転編入希望生徒向けの学校情報発信を行う。

##### 【評価指標②】 受験者層を拡充するために、「リーダーシップの共立®」を核とした戦略的な広報を行う。

アクションプラン	事業計画
1) 外部業者と連携した生徒募集活動を効果的かつ効率的に展開し、認知度向上を図る。	・Facebookに加えXやYouTube等、多様な媒体により、生き生きとした生徒の表情を発信し、共立第二中学校高等学校の充実した教育活動を周知する。 ・生徒会活動の一環として、生徒が主体となり学校の魅力発信方法について検討・企画する。
2) 教職員が適切に連携し、適正な広報活動体制を確立する。	・学校外での説明会、校内での説明会について、半期ごとに日程や業務内容、業務量を予め提示し、全教員で臨めるよう体制を構築する。 ・各種広報活動において、役割を終えた事業については廃止に向けた検討を行いスクラップする。

##### 【評価指標③】 奨学金制度の活用・検証を行い、学力、スポーツ・芸術等の資質に優れた生徒を確保する。

アクションプラン	事業計画
1) 奨学金制度を活用し、学力、スポーツ・芸術等の資質に優れた生徒を確保する。	・奨学生の学校生活や進学実績、課外活動の成果を整理し、学校全体で共有するとともに、奨学金給付の妥当性を検証する。今後のより有効な奨学金制度の在り方を検討し改善案をまとめる。 ・部活動顧問は、担当部活動の強化に必要な情報収集や学校訪問及び大会視察等を推進するとともに、学校名の周知に資する活動を確立し展開する。

## III-2. 教育改善・教育の質的向上

### 【長期目標】

育成を目指す資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)を明示し、生徒の多様な個性を尊重しながら学力を向上させつつ、セルフリーダーシップを発揮する人材を養成する。

主となる委員会・会議 二中高将来構想委員会 教務部 国際交流委員会 情報システム委員会	主となる事務局 第二中学校高等学校事務室
---	-------------------------

**【評価指標①】** 共立女子第二中学校は、基礎学力を定着させるために生徒の学習習慣の定着、学習意欲の向上を図る。

アクションプラン	事業計画
1) 「共立リーダーシップ®」の基礎的内容の理解と定着を図る。	・生徒が「共立リーダーシップ®」の意義を理解し身に付けることができるよう、目指すリーダーシップ教育を可視化し全教員が一丸となって指導できる校内の体制を構築する。
2) 家庭学習を習慣化させ、学んだ知識や技能の定着を図る。	・自学・自習の習慣化に向け、校内の学習環境を構築するとともに生徒の放課後学習に向けた意識を醸成する。 ・放課後における新たな学習システムの導入について検討を進める。
3) 実用英語技能検定について、卒業までに3級以上の取得を目指す。	・中学のブリティッシュヒルズ英語研修やドラマメソッド、高校のニュージーランドへの短期留学・ターム留学、ニュージーランドの姉妹校留学生との授業や課外活動を通じた交流等を通じて、検定取得に向けたモチベーションの向上と目標検定級の取得を目指す。

**【評価指標②】** 共立女子第二高等学校各コースのカリキュラムと生徒の成績等を検証し、検証結果に基づく改善を行い生徒の学習成果を高める。

アクションプラン	事業計画
1) コース再編後の教育実績及び進路実績に基づき、教育内容と教育方法の改善を図る。	・各コースの教育内容に対する成果を検証し、必要な改革をスピード感を持って実行する。
2) 「共立リーダーシップ®」を発展的に育む機会を構築し、展開する。	・目指すリーダーシップ教育を可視化し、全教員が一丸となって指導できるよう校内の体制を構築する。 ・共立女子大学・共立女子短期大学の「リーダーシップ教育センター」から講師を招聘するなど、校内研修会を実施し、理解を深める。
3) 実用英語技能検定について、卒業までに英語コースは準1級以上、特進コースは2級以上、総合進学コース及び共立進学コースは準2級以上取得を目指す。	・短期・中期留学や留学生との交流(英語に触れる機会)等を通じて、検定取得に向けたモチベーションの向上と目標検定級の取得を目指す。

**【評価指標③】** 総合的な探究の時間における「共立探究」の活動を充実させる。

アクションプラン	事業計画
1) 「共立探究」のプログラムを通して、思考力・判断力・表現力を向上させる。	・2025年度までに実施してきた取組や内容を改めて検証するとともに、共立女子第二中学校高等学校としての探究の在り方に関する認識を可視化させる。企業や大学等の外部機関と連携した探究学習のコンテンツ導入などについて検討する。
2) 探究、教科、行事を通じた効果的なカリキュラムの運用を図る。	・新学習指導要領の全学年での定着を機に、各教科における指導の成果や課題をまとめるとともに、現行の教育課程において改善すべき点を洗い出し、必要な改善を図る。
3) 英語コースにおいては、グローバルマインドの育成を目的とした「総合的な探究の時間」の3年間の流れを構築する。	・英語コース3年間の活動を振り返り、課題を整理し、改善する。 ・英語コース3学年の生徒間で情報共有する機会を計画する。

【評価指標④】 「学習の個別化」と「学習の自律」を促すためのゼミ・補習・講習等を実施する。

アクションプラン	事業計画
1) ゼミ・補習・講習を充実させ、学習の自律と個別化を促す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のニーズを把握した上で、基礎的な内容から、発展的な内容までを扱う講習を実施する。</li> <li>・夏期・冬期講習の参加者を増やすとともに、学校施設を活用した通いの学習合宿の実施について検討する。</li> </ul>
2) 支援を必要とする生徒が対面とオンラインを併用しながら、学習を継続できるようにする。(退学者の減少)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他校の情報収集を継続するとともに、WEBコンテンツ(Classroom)等を活用して学習支援を充実させる。</li> <li>・ホームルーム教室以外の学習環境(ラーニングcommons)を整備し、学習支援組織の設置に向けて、組織、運営、人員配置の調整を行う。</li> </ul>
3) ICT機器の授業における活用方法を積極的に導入し、教育の質的向上と生徒のICTスキルの向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業における効果的なICT機器の活用事例について情報収集し、校内研修を実施する。</li> <li>・気象状況により登校が困難となる場合のオンライン授業の実施に向け、通信機器の再整備や教材の整理、生徒指導等の準備を行う。</li> </ul>

### III-3. 生徒支援・進路支援

#### 【長期目標】

教科指導と課外活動において、一人ひとりの生徒の心と体の健全な成長を見守り、生徒が自律的に現在及び将来における自己実現を図っていけるよう支援を行う。また、一人ひとりの生徒がそれぞれ自己と向き合い、学びと社会を知り、主体的に針路について考え希望針路の実現を図っていけるよう支援を行う。

<b>主となる委員会・会議</b> 生徒部 進路指導部 教務部	<b>主となる事務局</b> 第二中学校高等学校事務局
--	--------------------------------

#### 【評価指標①】 心身の健全な成長に向けて、適切な支援を行う。

アクションプラン	事業計画
1) 特別な配慮が必要な生徒に対する支援を充実する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員を対象とした外部講師による研修職員会議を校内で実施する。</li> <li>・外部講習会への積極的な参加を促す。</li> <li>・特別支援委員会にて年間計画を策定し、校内で連携し、迅速かつ的確な支援を行う。</li> <li>・生徒が気軽に、身体的な変化等を相談できる体制を整える。</li> </ul>
2) 生徒との対話を通してマナーやルールに対する意識を向上させ、自律心を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、保護者への面談並びに年間2回の学校生活アンケートの実施によって生徒、保護者の学校に対する意識や要望など聞き取り、学校経営に資する。</li> <li>・共立女子第二中学校は毎学期、学年別に情報共有する連絡会を実施する。</li> <li>・共立女子第二高等学校は、引き続き礼法の時間を定期的に設ける。</li> </ul>
3) 生徒のネットリテラシー（情報モラル）を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八王子警察署や電気通信事業者等を招聘し、ネットリテラシーに関する講演を継続して実施する。</li> <li>・生徒会と連携した啓発活動を継続して実施する。</li> <li>・情報モラルに関する最新情報を収集し、生徒・保護者への情報発信を行う。</li> </ul>

#### 【評価指標②】 生徒会・委員会・クラブ等の活動において、生徒の自主性を引き出し、一人ひとりの能力を発揮できる機会を増やすことで、自己肯定感を高めていく。

アクションプラン	事業計画
1) 生徒会と委員会活動において、生徒の主体的な活動により活性化させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会役員会と各委員会の機能や活動の向上に向け、一人ひとりが意識すべきこと等を丁寧に説明する。これにより、生徒の自治活動の活性化及びリーダーシップの涵養を図る。</li> <li>・生徒一人ひとりの意見を生徒会役員・委員会が中心となって取りまとめ、学校生活の充実に向けた活動を積極的に支援していく。</li> </ul>
2) クラブと同好会活動の活性化と加入率を向上させる。（全校生徒のクラブ、同好会加入率を80%以上にする）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動に積極的に取り組むことの意義を改めて生徒に説明することで、学校全体が授業や放課後の部活動及び委員会活動に意欲的に取り組む雰囲気を醸成する。</li> <li>・クラブと同好会数について、顧問の人数及び指導スキルを勘案し、2025年度に引き続き検証し適正化する。</li> </ul>

【評価指標③】 針路プログラムを通してキャリア形成を行い、生徒一人ひとりの針路を実現する。

アクションプラン	事業計画
1) 針路プログラムを通して、生徒自身が長期的な視点でキャリアを考えられるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度までの針路プログラムの内容をもとに、課題を再調整し、プログラムを改善する。</li> <li>・「総合的な探究の時間」やロングホームルームを活用し、様々なキャリアを持つ卒業生による講演会、座談会等を実施する。</li> </ul>
2) データ分析を踏まえた進路指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬試験等の外部試験の結果を分析する会議を都度実施し、生徒一人ひとりの強みや弱みを把握した上で、弱点強化に向けた教科指導に結び付ける。</li> <li>・模擬試験データを基に、生徒の進路実績を検証する。</li> </ul>
3) 特別進学コースは、国公立・難関私大への現役進学率を20%以上、GMARCH及び理工系・医療系への現役進学率を30%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度の改善点を踏まえて、講座の内容、時期、期間等を見直し、生徒の希望に沿ったゼミ、講座、進路指導を実施する。</li> <li>・自学自習ができる環境を整理するとともにその活用を促す。</li> </ul>
4) 総合進学コースは、生徒自身の興味や関心に応じた進路を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学や短大に進学する意義について生徒の理解を深めるとともに、キャンパス訪問等を通して学部学科の理解や研究への意欲を醸成する。</li> <li>・入試制度の最新情報を提供するとともに、上級生から下級生に向けて入試情報や入試体験を共有する機会を設ける。</li> </ul>
5) 共立進学コースは、KWU高大連携プログラムを柱とした高大連携強化と学びを充実させ、共立女子大学・共立女子短期大学への円滑な進学を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共立女子大学・共立女子短期大学との多様な連携策を企画立案し、実施する。</li> <li>・ブレカレッジにおける課題を改善し、より有効な方法を構築する。</li> </ul>
6) 英語コースは、進学指導において海外大学への関心を高め、海外大学進学者を増加させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語4技能に特化した教育、講座等を展開する。</li> <li>・2025年度に参加した上級生による報告会を実施し、ターム留学の推進と支援を行う。</li> <li>・海外大学進学に関する最新の情報を収集し、生徒の関心を高めるとともに、推薦枠を拡大する。</li> </ul>

【評価指標④】 共立女子大学・共立女子短期大学をはじめとした大学等との連携を強化する。

アクションプラン	事業計画
1) 共立女子大学・共立女子短期大学の教育研究に触れる機会を増やし、理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校1年生対象のキャンパス見学会の内容を検証し、充実させる。</li> <li>・ブレカレッジの課題を改善し、KWU高大連携プログラムをさらに充実させる。</li> <li>・ブレカレッジを受講した高校3年生による下級生への授業成果発表会を実施する。</li> </ul>
2) 他大学や地域企業と連携し、多様な情報に触れる機会を増加させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度に実施した大学・企業等による出張授業をもとに、内容・方法をさらに充実させる。</li> </ul>

### III-4. 管理運営

#### 【長期目標】

「共立女子第二中学校高等学校ビジョン2032」の達成に向けて、戦略的かつ機動的な管理運営を行う。

主となる委員会・会議	主となる事務局
二中高将来構想委員会	第二中学校高等学校事務局

#### 【評価指標①】 生徒・保護者の共立女子第二中学校高等学校に対する満足度を向上させる。

アクションプラン	事業計画
1) 学校評価アンケートの回答率を向上させ、結果の信頼性を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒、保護者ともに回答率80%以上を達成するため、WEBによるアンケート実施のリマインドを行う等、周知の方法を改善する。</li> <li>保護者会全体会において、学校評価アンケート結果、並びに学校経営に反映させた施策について説明する。</li> </ul>
2) 学校評価に関わる生徒アンケートによる「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>2025年度アンケート結果に基づいて、日常の学習指導及び内容を点検評価・改善し、「そう思う」以上を90%以上にする。</li> </ul>
3) 学校評価に関わる保護者アンケートによる「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>2025年度アンケート結果に基づいて、日常の学習指導及び内容を点検・改善するとともに、保護者会・学年通信・各種行事等を通じてその取組を積極的に発信し、「そう思う」以上を90%以上にする。</li> </ul>
4) 学校評価に関わる保護者アンケートによる「わが子をこの学校に入学させて良かった」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>2025年度アンケート結果に基づいて、保護者会・各種通信等を活用した積極的な情報発信を通じて情報を共有し、総合的な結果として「そう思う」以上を90%以上にする。</li> </ul>

#### 【評価指標②】 スクール・ポリシーに基づいた特色ある教育を展開するため、教職員の適切な配置と資質向上を図る。

アクションプラン	事業計画
1) 校内外の研修会に積極的に取り組み、生徒への学習効果を高めるための教育内容・教育方法を研鑽する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学園内外から講師を招いた研修を含め、研修職員会議を実施する。</li> <li>校内に「授業」並びに「共立第二中学校高等学校の将来構想」に関する研修部会を立ち上げ、定期的に研究協議の場を設置・実施する。</li> <li>教員の授業改善の意識を高めるため、管理職による授業観察や助言の機会を年間を通して設ける。</li> <li>多様化する生徒の特性に対応するため、特別支援委員会を機能させ、丁寧な指導体制を構築・実施する。</li> </ul>
2) 生徒が「共立リーダーシップ®」を身に付け、発揮するため、教職員の支援スキルを向上する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が「共立リーダーシップ®」の意義を理解し身に付けることができるよう、目指すリーダーシップ教育を可視化する。その上で、全教員が一丸となって指導できる校内体制を構築する。</li> </ul>
3) 教育活動に取り組む時間を増加するため、業務効率化を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務のDX化、ペーパーレス化を推進し、業務の効率化を推進する。</li> </ul>

#### 【評価指標③】 八王子キャンパスの施設を整備し、有効活用する。

アクションプラン	事業計画
1) 模試や部活等の公式戦、地域イベント等に協力し、企業や地域の活性化に貢献する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>模試会場、部活公式戦会場等の提供を通じ、より広くキャンパスの魅力を伝える。</li> <li>校内の資源を活用し、八王子市と連携した理科教室を実施する。</li> <li>公式戦や模試での来校経験等、個別相談における受験生及び保護者からの声をもとに、より有効な活動を実施する。</li> </ul>

## IV. 共立大日坂幼稚園

### IV-1. 園児募集・園児確保

#### 【長期目標】

教育課程・指導計画の改善・充実、入園者選考方法の改善等を通じて、十分な定員を確保する。

主となる委員会・会議	主となる事務局
入園考査関連委員会	—

#### 【評価指標①】 入園定員を確保する。

アクションプラン	事業計画
1) 地域の特性を踏まえた園児募集と入試を実施する。	・近隣の私立幼稚園の分析結果をもとに、園児募集活動及び考査内容を見直す。 ・定員に満たない年次は積極的に転編入を受け入れる。
2) デジタル化を図り、入試業務における教職員の工数を削減する。	・2025年度に導入した合格通知一斉メール送信システムの結果を検証する。

#### 【評価指標②】 教育方針に共感する志願者を得るために適切かつ効果的な広報を展開する。

アクションプラン	事業計画
1) 保護者への調査をもとに広報充実を図る。	・各種広報媒体に、認知経路についてのアンケート結果を踏まえた内容を盛り込み、展開する。
2) 共立大日坂幼稚園の教育内容が伝わりやすいパンフレットを作成、配布する。	・パンフレットの内容を点検し、教育方針がより伝わりやすくなるよう改善する。 ・新たな活動や特徴ある活動の記載を検討する。
3) 入園後のイメージが伝わる情報を発信するホームページを作成し、運営をする。	・2025年度にリニューアルしたホームページを点検する。
4) デジタル化に合わせた広報を展開する。	・2026年度の共立女子大学児童学部設置に伴い、大学と連携した園の効果的な広報活動を展開する。 ・イメージ動画の作成について、園の良さが伝わる効果的なツールを幅広く調査し再検討する。
5) 共立大日坂幼稚園の魅力が伝わるよう未就園児活動を活性化する。	・未就園児活動をより充実させるため、園内での未就園児活動を改善する。 ・共立女子大学家政学部児童学科の活動(子育てひろば「はるにれ」、乳幼児親子グループ「さくらんぼ」)を参考に、園内での未就園児活動を検討する。
6) 卒園児保護者と連携した活動を活性化する。	・卒園児保護者が未就園児保護者を案内する見学会の実施日程を検証・改善し、参加人数を増員させる。 ・2025年度に実施した見学会を踏まえて、見学会の内容を見直す。

## IV-2. 教育改善・教育の質的向上

### 【長期目標】

園生活の中で、一人ひとりに応じた「リーダーシップの芽」を育むために組織的に協働し支援を行う。

主となる委員会・会議	主となる事務局
幼稚園教員会	-

**【評価指標①】** 幼稚園教育要領に定義されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置き、主体的・対話的な学びの中で、一人ひとりの個性に寄り添いながら、「リーダーシップの芽」を育むための支援を行う。

アクションプラン	事業計画
1) 園児の発達段階や年齢に応じた、教育を展開する。	・幼稚園教育要領を基本として展開している共立大日坂幼稚園の教育内容について理解した上で、教育内容を点検・評価し、改善する。
2) 友達、先生と協働的に取り組める環境、のびのびと園児が活動できる環境を整える。	・園庭の固定遊具の点検結果に基づき改善計画を立案し、修繕や整備を実施する。
3) 園児の個性を教員間で共有し、一人ひとりに合った教育を展開する。	・園児の記録及び記録した内容を共有するシステムの実装に向けて検討する。
4) 併設校と連携した教育を展開する。	・共立女子高等学校との連携プログラムを点検、評価し、見直す。

**【評価指標②】** 「リーダーシップの芽」を育成するため、園内研修システムを構築し、実施する。

アクションプラン	事業計画
1) 「共立リーダーシップ®」を全教員が深く理解し、教育の質的向上につながる研修を計画し、実施する。	・研修の成果を検証し、策定した研修計画を見直し、改善する。 ・「共立リーダーシップ®」について理解を深めるため、学期毎に実施している「共立リーダーシップ®」についての話し合いを継続して行う。
2) 受講した研修内容を教員間で効果的に共有する方法を構築する。	・デジタル化した研修資料の保存と共有をする運用を継続して行うとともに、共有方法を評価し改善する。

### IV-3. 保護者との連携・協力

#### 【長期目標】

園児が安心・安全に幼稚園生活を過ごすことができるよう、家庭と緊密な連携・協力を図り、子ども達の育ちを支える。

主となる委員会・会議	主となる事務局
園内研修検討委員会	-

【評価指標①】 保護者とのコミュニケーションの中で把握した課題の改善を行い、その活動を発信することで、幼稚園と家庭が一体となる取組を進める。

アクションプラン	事業計画
1) 保護者との連絡をデジタル化し、利便性を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の利便性を高めるため、アプリの内容を評価、改善する。</li> <li>・アプリを活用した子どもの様子を伝える取組について評価、改善する。</li> </ul>
2) 保護者とのコミュニケーションで課題を把握し改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントや幼稚園運営に対する保護者の意見を聴取して、適宜改善する。</li> </ul>
3) 学校評価アンケートをデジタル化し利便性を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケートの内容が教育活動と見合っているか精査する。</li> </ul>
4) 「母の会」との連携を継続し、共立大日坂幼稚園の教育への理解と協力につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度の「桜花の会」の活動を踏まえ、共立大日坂幼稚園の教育への理解が高まる活動計画を立てる。</li> <li>・活動計画を円滑に進めるため、2026年度の「桜花の会」と密な連携を図る。</li> </ul>

## IV-4. 管理運営

### 【長期目標】

「共立大日坂幼稚園ビジョン2032」の達成に向けて、教職員がリーダーシップを発揮し、地域社会等と連携しながら、戦略的かつ機動的な管理運営を行う。

主となる委員会・会議	主となる事務局
幼稚園教員会	-

【評価指標①】 法人の経営課題や幼稚園の課題について教職員一人ひとりが迅速かつ正確に共有し、「共立大日坂幼稚園ビジョン2032」達成に向けて教職員一体となって取り組む。

アクションプラン	事業計画
1) デジタル化による業務軽減に基づき、教育活動に取り組む時間を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育ドキュメンテーション(子どもの活動経過を写真や動画をを用いて分かりやすく継続的に記録したもの)の活用による業務負担の軽減について評価し、改善する。</li> <li>・預かり保育の支払方法について、業務負担及び保護者負担の観点から検討する。</li> </ul>
2) 教員間の情報交換のスピード化を図り、定期的な打ち合わせを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内での情報交換のツールとしてアプリの活用について評価し、改善する。</li> </ul>
3) 法人事務局との連携強化を図り、管理運営を検討する体制を整える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設設備の整備について、改善計画を検討し進める。</li> </ul>

【評価指標②】 文京区・地域・社会等からの共立大日坂幼稚園の教育活動に対する要請を把握し、適切な幼稚園運営に務める。

アクションプラン	事業計画
1) 社会的なニーズに対して迅速に対応するため、行政や近隣幼稚園との連携を密にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てフェスティバルについて、2025年度に実施した結果を検証し評価する。</li> </ul>
2) 地域の要請に合わせた活動を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共立女子大学家政学部児童学科及び児童学部児童学科と連携し、子育てひろば「はるにれ」の活動を参考に、新たな未就園児活動を実施する。</li> </ul>

## V. 学園

### V-1. 財政

#### 【長期目標】

共立女子学園の永続維持のため安定した財政基盤を確立する。

主となる委員会・会議	主となる事務局
財政運営会議	財務課

【評価指標①】 予算の配分と執行管理を適切に行い、決算において基本金組入前当年度収支差額を収入超過にする。

アクションプラン	事業計画
1) 予算編成において経常収支差額を収支均衡予算とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2027年度予算編成方針に基づき、収支均衡予算を策定する。</li> <li>・2027年度の中期計画予算を確保し、中期計画の確実な履行を支援するとともに、成果指標（KPI）の設定を行い成果の可視化に努める。</li> <li>・共立女子第二中学校高等学校及び共立女子短期大学に対し、教育の質の維持向上に向けた活動を支援する。</li> </ul>
2) 決算において基本金組入前当年度収支差額の収入超過を維持する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経常的な活動において、予算執行管理を適切に行い、収入超過を維持する。</li> </ul>

【評価指標②】 中長期的な資金需要に基づいて特定資産の積立を計画的に行う。

アクションプラン	事業計画
1) 将来の建替更新に備えて毎年計画的に特定資産に積み立てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画工事の着実な履行を進めつつ、10億円以上の積立を目標とする。</li> </ul>

【評価指標③】 安定した財政基盤の確立のため適切に収入を確保する。

アクションプラン	事業計画
1) 適切な学費を検証する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2026年度に実施した学費改定の効果を検証するとともに、各設置校（大学・短期大学は学部学科別）の収支構造、教育内容・教育成果（教育付加価値）の現状を点検する。あわせて、物価上昇や他大学の学費動向等の外部環境を踏まえ、今後の追加改定の必要性を議論できるよう、影響試算（収支・募集・家計負担）と論点整理を行い、所定の会議体に報告する。</li> </ul>
2) 共立女子大学・共立女子短期大学における補助金収入の増額を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国、東京都、財団等から提供される補助金の交付要件を各部署に適切に展開し、要件達成及び補助金の増額につなげる。</li> </ul>
3) 募金事務室の体制整備及び寄付金額の増収を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・募金活動の全学的な推進体制を構築し、組織的に取り組みを推進する。</li> <li>・「共立リーダーシップ募金」等の寄付基盤を定着させ、目標金額達成に向けて着実に積み上げる。</li> <li>・特定のプロジェクトの発展に資する募金活動としてプロジェクト型募金を複数件立ち上げる。</li> <li>・新たな寄付者層を開拓し、学園の支援者基盤を整える。</li> </ul>
4) 効率的な資産運用を行い、利息収入を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資金運用方針に基づき、効果的な資金運用を行うことで、利息収入2億円以上を確保する。</li> </ul>

## V-2. 組織・人材

### 【長期目標】

教職員一人ひとりが「共立リーダーシップ®」を発揮し、やり甲斐を持って能力を生かし、活躍できる職場環境を整備する。

主となる委員会・会議	主となる事務局
学園将来基本構想委員会	人事課

**【評価指標①】** 中長期的な総人件費管理を行い、「共立リーダーシップ®」を発揮できる人材を確保し、適切な人員配置を行う。

アクションプラン	事業計画
1) [適切な人件費管理]総額人件費の適正化に向けて教職員の定数管理を行う。	・収入における適切な人件費の割合を算出し、総人件費管理を行う。
2) [採用]将来を担う若手人材の獲得、豊富な経験やスキルを持つ人材を確保する。	・教育指針・行動指針である「リーダーシップの共立®」を体现できる人材を採用する。
3) [再雇用]豊富な経験やスキルを持つ人材を積極的に活かす。	・事務職員、教員(中学校、高等学校、幼稚園)の定年再雇用制度の素案を作成する。

**【評価指標②】** 公平で透明性のある人事評価制度を確立する。

アクションプラン	事業計画
1) [人事評価]公平で透明性のある人事評価制度を全学的に整備する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公平で透明性のある人事評価制度を整備・運用する。</li> <li>・PDCAサイクルを回して人事評価制度の質を向上させる。</li> <li>・評価者研修を実施する。</li> <li>・職務限定職員及び嘱託職員も専任職員の評価制度に倣った評価制度の導入を検討する。</li> </ul>

**【評価指標③】** 新たな人事・給与制度を導入する。

アクションプラン	事業計画
1) [報酬]事務職員について職位・等級に応じた新たな人事・給与制度を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな人事・給与制度を適切に運用する。</li> <li>・PDCAサイクルを回して人事・給与制度の質を向上させる。</li> <li>・昇格等の取扱い規則を策定する。</li> </ul>

**【評価指標④】** 全ての事務職員がそれぞれの「共立リーダーシップ®」を発揮するために、必要な能力・資質を向上させるためのSDを実施し、自律的なキャリア構築や学び直しを促進する施策を実施する。

アクションプラン	事業計画
1) 新規採用者の育成システムを整備する。	・新たな給与制度の導入に合わせた研修制度を再構築・拡充する中で、入職から3年程度までの事務職員を対象とした研修(アシストプログラム)を実施する。
2) 各課業務の専門性を向上させる施策を整備する。	・新たな給与制度の導入に合わせた研修制度を再構築・拡充する中で、階層別研修、履修証明プログラムへの派遣、業務に関連する研修プログラムの提供を行う。
3) 「共立リーダーシップ®」を理解、発揮できるよう研修を実施する。	・新たな給与制度の導入に合わせた研修制度を再構築・拡充する中で、全事務職員を対象にリーダーシップ研修を継続して実施する。なお、2025年度までの研修からの継続性を踏まえたプログラムを構成する。
4) DXに対応できる人材を育成する。	・DX人材の役割を定義し、DX人材の育成プログラムを設計する。

【評価指標⑤】 働きやすい事務局の職場づくりのため、組織調査等で課題を可視化し、解決方を推進する。

アクションプラン	事業計画
1) 職場のコミュニケーションの活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局内の横の繋がりを活性化させ、対話の機会を増加する取組みを推進する。</li> <li>・組織診断を実施する。</li> </ul>
2) 多様な働き方や事務効率化を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育児・介護休業法を踏まえ、短時間勤務制度を適切に整備する。</li> <li>・業務時間(残業時間)の適正化を図る。</li> <li>・事務局業務カイゼンアイデアコンテストを企画する。</li> </ul>
3) 事務局の人員配置を最適化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人事データベースを整備し、タレントマネジメントを行う。</li> </ul>
4) 教職員の健康診断やストレスチェックの受診率を100%にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の健康診断やストレスチェックの受診率を2025年度より向上させる。</li> </ul>

## V-3. 施設設備

### 【長期目標】

「リーダーシップの共立®」を教育指針に掲げる学園にふさわしい、教育研究環境を整備し、新たな価値が創造されるキャンパスにする。

主となる委員会・会議 学園キャンパス整備検討委員会	主となる事務局 財務課 情報システム課 神田一ツ橋キャンパス再構築事務室
------------------------------	---

### 【評価指標①】 中長期的な施設設備整備計画に基づき、計画的な修繕及び改修を実施する。

アクションプラン	事業計画
1) 各キャンパスにおける長期修繕計画を5年間で総額38億円とし、毎年度計画的に実行する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神田一ツ橋キャンパスについては、収容定員増加や新学部設置に必要な設備の導入、本館照明設備のLED化、染織文化財修復工房の設置、本館プロジェクターの更新を実施する。</li> <li>・八王子キャンパス、各研修センターについては、老朽箇所の補修など、教育環境の安全性を担保する整備を実施する。</li> </ul>

### 【評価指標②】 神田一ツ橋キャンパスについて、ランドデザインに基づき再構築計画を推進する。

アクションプラン	事業計画
1) 再構築計画を完成させる。	・技術的な最適化を図ることでコスト管理を徹底しつつ、諸条件の整合性の確保を図り計画を進める。

### 【評価指標③】 八王子キャンパスについて、必要不可欠な施設設備を確認し、施設設備整備計画に基づき整備する。

アクションプラン	事業計画
1) 10号館(講堂)客席天井の耐震化を進める。	・2023年度に耐震化工事が完了した。
2) 11号館の解体と跡地利用計画を策定する。	・解体に係る費用や解体後の利用方法など、八王子キャンパスの教育環境を総合的に判断し、今後の方向性について引き続き検討する。

### 【評価指標④】 各研修センターについて、施設設備整備計画に基づき整備する。

アクションプラン	事業計画
1) 研修センター軽井沢寮と河口湖寮の利用計画を策定する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軽井沢寮は、Wi-Fi環境の整備を検討する。</li> <li>・河口湖寮は、Wi-Fiの利用状況を確認し、利用者の利便性が高まるよう、安定した通信環境の整備を検討する。</li> </ul>
2) 研修センター杉並寮の利用計画を策定する。	・土地の運用方法について、複数の専門業者からの具体的な提案を踏まえ、今後の活用の方向性を決定する。

【評価指標⑤】 教育研究の質向上や教職員の業務効率化に資する情報インフラの整備・運用・改善を実施する。

アクションプラン	事業計画
1) 各校での整備計画を策定する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報インフラやDX推進について、各設置校と連携し、教育方針や整備計画に基づき適切に実施する。実施にあたっては、事前に計画の適切性を再確認し、必要に応じて計画を更新し、計画時と実施時のギャップを是正する。</li> <li>・総合情報センター運営委員会において、学園全体の情報インフラ整備計画の予算及び内容を協議し、改善が必要な場合は対策を講じる。</li> </ul>
2) 学園情報インフラとして最適化されたネットワークを構築する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内ネットワークの利用状況調査の結果・推移等に基づき、機器の配置最適化・更新・追加等を行い、ネットワークに関する改善活動を推進する。</li> <li>・次期ネットワークシステムの導入に向けて、キャンパスグランドデザインの動向と連携した具体的な計画を更新・策定し、担当業者の選定・調整等を進める。</li> </ul>
3) 学園全体のセキュリティレベルの向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園の構成員一人ひとりのセキュリティ意識の向上を図るため、学園セキュリティポリシーの運用及び啓発活動に取り組む。</li> <li>・全学セキュリティ研修の実施方法・内容・時期等を見直し改善を図る。また、必要に応じてセキュリティポリシーの改定を行う。</li> <li>・ネットワーク及び認証基盤において、従来のプロキシサーバーとは異なる新たな仕組みを導入し、学園全体のセキュリティ基盤の強化を行う。</li> </ul>
4) 共立女子学園のDXを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局各部署の業務について、生成AIを活用した業務の効率化・省力化、新規案件への対応時間の創出等を実現するため、好事例の学内共有などを定期的実施し、利用者のスキル底上げを図る。</li> <li>・新法人システムの運用支援を2025年度に引き続き進め、財務課・人事課それぞれの業務の効率化・省力化、新規案件への対応時間の創出等を実現する。</li> <li>・「共立DX」の旗印のもと、設置校の各DX専門委員会や総合情報センターを中心に学園全体でDXに取り組む体制を維持・向上させ、各校における教育や業務についてデジタル技術を活用した変革を進める。</li> </ul>

## V-4. 法人ガバナンス

### 【長期目標】

永続的な発展と成長に向けてガバナンスを発揮する。

主となる委員会・会議	主となる事務局
学園将来基本構想委員会	総務企画課

【評価指標①】 ステークホルダーの信頼を確保し、教育研究活動の一層の推進を図るため、最適なガバナンス体制を確立する。

アクションプラン	事業計画
1) 私立学校法の改正を踏まえた管理運営体制を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部統制システムに基づき整備した各種規程の体系を踏まえ、内部統制体制の具体的な構築を進める。</li> <li>・監査及びリスク管理体制の一層の充実を図るため、理事等による業務執行の状況が監事に適切に報告される仕組みを構築する。</li> </ul>

## 3. 2026年度予算の概要

### (1)2026年度予算編成方針

学園ビジョンおよび第三期中期計画に基づき、各部局において教育研究計画・業務計画を策定の上、内示積算方式により2026年度予算を編成する。

予算編成にあたっては、学納金収入構造の変化や中長期的な施設整備に伴う資金需要を見据え、下記の方針に基づき、持続可能な財務運営を行う。

#### <基本方針>

学納金収入の減少傾向および神田一ツ橋キャンパス再構築計画に向けた検討に伴う将来的な資金需要を踏まえ、財務健全性の維持を前提としつつ、教育・研究の質向上に資する戦略的投資を着実に推進する。

○当該年度に学園に帰属する収入規模（学生生徒等納付金、寄付金、補助金、資産運用収入等）を的確に見込んだ上で、収入水準に応じた適正な支出規模となる予算を策定する。

○各部局からの予算申請内容について、その必要性・妥当性・優先度を精査し、事業活動収支においては経常収支差額の収支均衡を基本とする。

○資金収支においては、翌年度繰越支払資金を安定的に確保するとともに、中長期的な資金需要を見据え、計画に基づいた特定資産への繰入を行う。

○第三期中期計画に基づく中期計画予算を確保し、教育改革、DX推進等の重点施策に対して、優先的かつ効果的な予算配分を行う。

○神田一ツ橋キャンパスのランドデザインに基づき再構築計画の具体化に向けて検討する。あわせて、既存施設の維持管理・修繕を計画的に実施し、安全性および良好な学修環境を確保する。また、省エネルギー化や環境配慮型の施設整備を進め、持続可能なキャンパス運営を実現する。

#### <2026年度の財務見通しについて>

2026年度の学生生徒等納付金収入については、入学生を対象とした学費改定により授業料単価等の増額を見込むものの、在籍する学生・生徒数の減少の影響を受け、前年度比では微増にとどまる見通しである。

一方、施設設備関連支出は前年度と比較して増加する見込みである。将来的な神田一ツ橋キャンパス再整備を見据えた再構築計画について検討中であり、2026年度は再構築計画に係る経費を計上している。

また、神田一ツ橋キャンパス本館演習室の整備をはじめ、各学校における教育環境の整備を計画的に進めるとともに、教育研究活動のさらなる充実を目的とした支援として、リーダーシップ教育に関わる新たな取組を財政面から後押しする。このため、第三期中期計画を拡充した中期計画予算および学長裁量経費の予算枠については、引き続き確保する。

以上を踏まえ、2026年度の事業活動収支における経常収支差額は、約3,600万円の収入超過となる見込みであり、財務健全性を維持しつつ、将来を見据えた教育・施設投資を両立する予算編成としている。

### (2)資金収支予算（表1）

#### 【収入】

##### <学生生徒等納付金収入>

2026年度入学者を対象とした学費改定により、授業料収入は前年度比約3,800万円の増加を見込む（東京都授業料軽減助成金分除く）。一方、在籍する学生・生徒数の学年進行に伴う減少の影響を受け、学生生徒等納付金収入全体では前年度比約130万円増加の約88億7,500万円を計上している。

##### <寄付金収入>

施設設備の更新にむけて、施設設備寄付金収入として1億円を計上している。

#### <補助金収入>

大学・短期大学における修学支援新制度ならびに高校・二高における東京都授業料軽減助成金事業の拡充に伴い、近年増加傾向にある。こうした実績動向を踏まえ、2026年度予算では、前年度比約1,500万円増の約28億1,300万円を計上している。

#### <その他の収入>

約13億7,100万円のうち、特定資産の取崩収入を約11億800万円を計上している。その詳細については支出項目において説明する。

また、前年度繰越支払資金約27億8,700万円を加えた結果、2026年度の収入の部合計は約164億7,700万円となる。

### 【支出】

#### <人件費支出>

人件費支出は、教育研究体制の充実に向け、若手教員の採用および支援体制の強化等、将来を見据えた人材投資を継続し、前年度比約6,400万円減の約68億6,500万円を計上している。

#### <教育研究経費支出>

2026年度の教育研究経費は、前年度比1億2,500万円減の約36億9,700万円を計上した。これは、2025年度に実施した研修センター軽井沢寮の耐震補強工事をはじめとする大規模な施設修繕が一巡し、当該年度の修繕関連支出が平準化したことによるもの。

本年度は、学費改定により確保した財源を原資に、教育・研究の質的向上に直結する教育改革を推進する。リーダーシップ教育・PBL、データサイエンス、国際教育、研究支援体制を重点領域とし、集中的に投資する。また、奨学金・キャリア支援・課外活動支援を拡充し、学生支援体制をソフト・ハード両面から強化する。

#### <管理経費支出>

神田一ツ橋キャンパス再整備計画の検討に向けた支援業務に係る委託費を計上したことにより、前年度比約7,800万円増の約9億2,200万円としている。

#### <支出その他>

当該年度特有の支出として、施設関係支出については、神田一ツ橋キャンパス再構築計画の検討に係る費用のほか、同キャンパス本館における建築・デザイン学部演習室の整備、八王子キャンパス1号館の照明LED化工事等を実施することから、前年度比約3億5,300万円増の約8億3,100万円を見込んでいる。

また、設備関係支出については、神田一ツ橋キャンパス1号館におけるAV設備更新工事や、幼稚園における幼児用トイレの改修等を実施する予定となっており、前年度比約1,700万円減の約2億6,300万円を計上している。

これらの支出を織り込んだ上で、資金収支の健全性を確保し、翌年度繰越支払資金は約28億4,700万円を見込んでいる。

## (3)事業活動収支予算（表2）

教育活動収支については、教育環境の整備や教育研究活動への重点的な投資により、約1億7,000万円の支出超過となる見込みである。一方、教育活動外収支を含めた経常収支差額では、約3,600万円の収入超過を見込んでおり、経常的な財務運営は安定的に維持されている。

特別収支については、約9,600万円の収入超過となる見込みである。これに予備費1億円を加味した結果、基本金組入前当年度収支差額は約3,200万円の収入超過となる。

さらに、将来に向けた財務基盤の強化を目的として基本金約9億8,900万円を組み入れることから、基本金組入後の当年度収支差額は約9億5,800万円の支出超過となる見込みである。

## (4)中期計画予算（表3）

リーダーシップ教育につながる新たな教育研究活動を重点的に支援することを目的として、引き続き予算枠を2億円とした。各部署から申請のあった計画については、内容および実現性等を精査した上で査定を行い、その結果、総額で約1億6,700万円を計上している。

## 表1 資金収支予算書

収入の部

(単位 千円)

科目	予算	前年度予算	増減
学生生徒等納付金収入	8,875,472	8,874,177	1,296
手数料収入	206,799	206,799	0
寄付金収入	180,100	76,500	103,600
補助金収入	2,813,400	2,798,679	14,721
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	47,954	47,954	0
受取利息・配当金収入	205,423	205,423	0
雑収入	309,727	339,447	△ 29,720
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,394,265	1,380,848	13,417
その他の収入	1,371,481	1,304,467	67,014
資金収入調整勘定	△ 1,714,585	△ 1,678,096	△ 36,490
前年度繰越支払資金	2,787,269	3,380,227	△ 592,957
収入の部合計	16,477,306	16,936,425	△ 459,119

支出の部

科目	予算	前年度予算	増減
人件費支出	6,864,615	6,929,083	△ 64,467
教育研究経費支出	3,696,652	3,821,245	△ 124,593
管理経費支出	921,973	844,330	77,644
借入金等利息支出	0	309	△ 309
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	830,780	477,586	353,194
設備関係支出	262,628	279,482	△ 16,853
資産運用支出	950,000	1,550,000	△ 600,000
その他の支出	109,273	251,058	△ 141,785
〔予備費〕	100,000	100,000	0
資金支出調整勘定	△ 106,000	△ 103,937	△ 2,063
翌年度繰越支払資金	2,847,384	2,787,269	60,114
支出の部合計	16,477,306	16,936,425	△ 459,119

※2026年3月時点のものであり、その後補正によって変更が生じる場合がある。

※単位を千円未満四捨五入としているため合計額と一致しない場合がある。

表2 事業活動収支予算書

(単位 千円)

		科目	予算	前年度予算	増減
教育活動収支	収事 入業 の活 部動	学生生徒等納付金	8,875,472	8,874,177	1,296
		手数料	206,799	206,799	0
		寄付金	85,750	81,400	4,350
		経常費等補助金	2,813,400	2,798,679	14,721
		付随事業収入	47,954	47,954	0
		雑収入	309,727	339,447	△ 29,720
		教育活動収入計	12,339,103	12,348,456	△ 9,353
	支事 出業 の活 部動	科目	予算	前年度予算	増減
		人件費	6,863,360	6,845,674	17,687
		教育研究経費	4,685,675	4,816,245	△ 130,570
		管理経費	959,744	883,330	76,415
		徴収不能額等	0	0	0
		教育活動支出計	12,508,780	12,545,248	△ 36,469
	教育活動収支差額		△ 169,677	△ 196,792	27,116
教育活動外収支	収事 入業 の活 部動	科目	予算	前年度予算	増減
		受取利息・配当金	205,423	205,423	0
		その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計		205,423	205,423	0
	支事 出業 の活 部動	科目	予算	前年度予算	増減
		借入金等利息	0	309	△ 309
		その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計		0	309	△ 309
	教育活動外収支差額		205,423	205,114	309
	経常収支差額		35,746	8,321	27,425
特別収支	収事 入業 の活 部動	科目	予算	前年度予算	増減
		資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	110,000	8,200	101,800
	特別収入計		110,000	8,200	101,800
	支事 出業 の活 部動	科目	予算	前年度予算	増減
		資産処分差額	14,203	28,394	△ 14,191
		その他の特別支出	0	381,326	△ 381,326
	特別支出計		14,203	409,720	△ 395,517
	特別収支差額		95,797	△ 401,520	497,317
	〔 予備費 〕		100,000	100,000	0
基本金組入前当年度収支差額		31,543	△ 493,199	524,742	
基本金組入額合計		△ 989,123	△ 174,896	△ 814,227	
当年度収支差額		△ 957,580	△ 668,095	△ 289,485	
前年度繰越収支差額		△ 4,087,948	△ 3,419,853	△ 668,095	
基本金取崩額		0	0	0	
翌年度繰越収支差額		△ 5,045,527	△ 4,087,948	△ 957,580	
(参考)					
事業活動収入計		12,654,526	12,562,079	92,447	
事業活動支出計		12,622,983	13,055,278	△ 432,295	

※2026年3月時点のものであり、その後補正によって変更が生じる場合がある。

※単位を千円未満四捨五入としているため合計額と一致しない場合がある。

### 表3 中期計画予算

(単位：千円)

部門等	長期目標	事業内容	予算額	
大学・短期大学	I-2	教育・研究	D Xに対応するファッションデザイン教育	1,100
			研究旅行によるフィールドワークの実践	4,505
			ニュース時事能力検定及び世界遺産検定	2,250
			研究旅行「国際事情・フィールドワーク」	2,945
			G S Eプログラム推進費	4,200
			シミュレーション教育の開発・実施	2,126
			学修意欲、満足度、リーダーシップ醸成	3,183
			建築・デザイン学部シンポジウム	430
			小学校教員養成 演習	1,259
			2コース制を活かしたICT教育の充実	53
			短大生のキャリア教育の充実・強化	1,999
			基礎ゼミナール・課題解決のためのLS入門	14,154
			リーダーシップ開発	4,127
			情報教育に関する計画	3,613
			英語教育の充実	18,154
			競争的研究費獲得支援プログラムの実施	1,670
			教育改革に係る支援業務	6,500
	I-4	学生生活	学生生活支援（キャンパスライフの充実）	968
	I-5	学修支援・授業支援	入学前教育・リメディアル教育の実施	2,350
			リーダーシップ教育の支援の充実	4,890
共立リーダーシップG P・P J活動支援			20,000	
I-6	キャリア形成支援	卒業生・企業におけるデータ分析・管理	2,810	
		選考対策支援	2,759	
		キャリア形成支援	2,375	
		社会人基礎力の養成	14,356	
		進学支援（短期大学）	99	
I-7	社会連携・貢献	正課外講座の実施	4,250	
中学高等学校	II-1	入学者受入れ	広報部「生徒募集」	2,500
			教務部「総合探究活動」	7,580
	II-2	教育改善・教育の質的向上	非常勤講師等 補習・補講	700
			進路指導部「生徒教育活動諸費」	1,450
	II-3	生徒指導・進路支援	国際交流部「海外研修・留学関係」	7,906
			出張・行事・研修等	6,571
	II-4	管理・運営	教務部「教育活動の支援」	9,373
			英語ライティング指導・英検指導	1,200
部活動関係			8,000	
教務部・教育課程、授業計画等の立案、運営			180	
第二中学校高等学校	III-2	教育改善・教育の質的向上	英語科・視聴覚教材による授業の充実化	610
			総計	167,322

※単位を千円未満四捨五入としているため合計額と一致しない場合がある。

# < I. 共立女子大学・共立女子短期大学【1/2】 >

理念等	<p>建学の精神：「女性の自立と自活」 校訓：「読書、勤勉、友愛」</p> <p>教育指針・行動指針：「リーダーシップの共立」</p> <p>共立女子大学・共立女子短期大学ビジョン：「自律と努力、創造とキャリア、協働とリーダーシップ」</p>
-----	---

## 共立女子大学・共立女子短期大学ビジョン 2032 誰もが「Major in Anything. Minor in Leadership.®」を実感できる大学・短期大学

長期	<p><b>I-1. 入学受入れ</b></p> <p>「リーダーシップの共立」を掲げる共立女子大学・共立女子短期大学のアドミッション・ポリシーに則り、多面的かつ、公正な入試を実施し、多様な入学を受け入れる。</p> <p><b>I-2. 教育・研究</b></p> <p>各専攻科・学部・科で専攻活動に基づいた専門的な知識・技能を教授し、戸面に関係なく全学生が「共立リーダーシップ」を養育できるようにする。</p> <p><b>I-3. 国際化</b></p> <p>学生・教職員が国際交流の場において多様性を認め、尊重し合い、「共立リーダーシップ」を養育できるようにする。</p> <p><b>I-4. 学生生活</b></p> <p>学生一人ひとりが有意義な学生生活を送ることで、「共立リーダーシップ」を養育できるように、組織内に協働し支援を行う。</p> <p><b>I-5. 学修支援・職業支援</b></p> <p>学修成果や教育成果の可視化の結果を活用した継続的な改善活動により、学生が専門的な知識・技能を活用しながら、「共立リーダーシップ」を養育できるように、組織的に協働し支援を行う。</p>
----	---

<第3期中期計画>  
[2023年4月～2028年3月]

中期	<p><b>中期計画【評価指標】</b></p> <p>①アドミッション・ポリシーに則り、多面的かつ公正な入学選抜を実施する。 ②共立女子大学は、入学者数を適切に管理し、入学者の確保を怠らない。 ③入学定員は、入学者数を適切に管理し、入学者の確保を怠らない。 ④共立女子短期大学は、総合型選抜・学校推薦型選抜に重点を置きながら、一般選抜も含め入学定員を充足する。 ⑤共立女子大学・短期大学は、諸施策を実行して、入学者を増やす。 ⑥共立女子大学・短期大学は、入学定員を充足し、入学者数を増やす。 ⑦共立女子大学・短期大学は、入学定員を充足し、入学者数を増やす。 ⑧共立女子大学・短期大学は、入学定員を充足し、入学者数を増やす。 ⑨共立女子大学・短期大学は、入学定員を充足し、入学者数を増やす。 ⑩共立女子大学・短期大学は、入学定員を充足し、入学者数を増やす。</p> <p><b>責任者</b> 学長</p> <p><b>主となる委員会・会議</b> 全学アドミッション委員会</p> <p><b>主となる事務局</b> 入試課</p> <p><b>中期計画【評価指標】</b></p> <p>①専攻科・学部・科、専門・教養を問わず、リーダーシップを養成する。 ②専攻科・学部・科、専門・教養を問わず、リーダーシップを養成する。 ③専攻科・学部・科、専門・教養を問わず、リーダーシップを養成する。 ④専攻科・学部・科、専門・教養を問わず、リーダーシップを養成する。 ⑤専攻科・学部・科、専門・教養を問わず、リーダーシップを養成する。 ⑥専攻科・学部・科、専門・教養を問わず、リーダーシップを養成する。 ⑦専攻科・学部・科、専門・教養を問わず、リーダーシップを養成する。 ⑧専攻科・学部・科、専門・教養を問わず、リーダーシップを養成する。 ⑨専攻科・学部・科、専門・教養を問わず、リーダーシップを養成する。 ⑩専攻科・学部・科、専門・教養を問わず、リーダーシップを養成する。</p> <p><b>責任者</b> 学長</p> <p><b>主となる委員会・会議</b> 研究科長・学部長・科長会 全学教育推進機構 総合文化研究所</p> <p><b>主となる事務局</b> 教務課 大学生涯課 教育学術推進課</p>
----	---

短期	<p><b>中期計画【評価指標】</b></p> <p>①専攻科・学部・科、専門・教養を問わず、リーダーシップを養成する。 ②専攻科・学部・科、専門・教養を問わず、リーダーシップを養成する。 ③専攻科・学部・科、専門・教養を問わず、リーダーシップを養成する。 ④専攻科・学部・科、専門・教養を問わず、リーダーシップを養成する。 ⑤専攻科・学部・科、専門・教養を問わず、リーダーシップを養成する。 ⑥専攻科・学部・科、専門・教養を問わず、リーダーシップを養成する。 ⑦専攻科・学部・科、専門・教養を問わず、リーダーシップを養成する。 ⑧専攻科・学部・科、専門・教養を問わず、リーダーシップを養成する。 ⑨専攻科・学部・科、専門・教養を問わず、リーダーシップを養成する。 ⑩専攻科・学部・科、専門・教養を問わず、リーダーシップを養成する。</p> <p><b>責任者</b> 学長</p> <p><b>主となる委員会・会議</b> 全学教育推進機構</p> <p><b>主となる事務局</b> 教育学術推進課</p>
----	--

※評価指標は優先順位に応じて列記している。



## <Ⅱ. 共立女子中等高等学校>

理念等	建学の精神：「女性の自立と自活」 校訓：「誠実、勤勉、友愛」 教育指針・行動指針：「リーダーシップの共立」
	共立女子中等高等学校ビジョン：「時代を超えて“輝き、翔ばたく女性”を育成する」

### 誰もが「関わる力」「動く力」「考える力」「解く力」を磨き、リーダーシップを発揮して人生を切り拓いていける中学高等学校

長期	<p><b>Ⅱ-1. 入学者受入れ</b></p> <p>「リーダーシップの共立」を掲げる共立女子中等高等学校の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）を明示し、方針に基づいた入試により入学を受け入れる。</p>	<p><b>Ⅱ-2. 教育改善・教育の質的向上</b></p> <p>育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）、教育課程の構成及び進路に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を明示し、生徒の多様な個性を尊重しながら学力を向上させつつ、「共立リーダーシップ」を醸成する人材を養成する。</p>	<p><b>Ⅱ-3. 生徒指導・進路支援</b></p> <p>学校活動の中で「共立リーダーシップ」を発揮することで自己満足感を高めながら、志望する進路が実現できるよう、組織内に協働し支援を行う。</p>	<p><b>Ⅱ-4. 管理運営</b></p> <p>「共立女子中等高等学校ビジョン2032」の進路に向けて、戦略的かつ機動的な管理運営を行う。</p>
----	---	---	--	--

### <第3期中期計画> [2023年4月～ 2028年3月]

中期	<p><b>中期計画</b> 【評価指標】</p> <p>①アドミッション・ポリシーに基づいた入試を実施し、入学定員を充足させる。 ②志望率に基づいた戦略的な広報活動の下、十分な入学志願者を獲得し、志願倍率を高め、実受験倍率2.5倍以上を維持する。</p>	<p>①カリキュラム・ポリシーの下、カリキュラム・マネジメントを徹底し、グラデュエーション・ポリシーに基づき、質の高い生徒を育成する。 ②視野を広げる教育を推進し、全生徒が「共立リーダーシップ」を身に付け発揮する。</p>	<p>①学校活動（部活動、行事含む）の中で自分らしいリーダーシップを発揮できるよう指導・支援を受ける機会を多く提供し、多様な進路の選択を最優先にしつつ、進路支援を実施させ、第一志望への進学率を高める。 ②教職員・教員が保護者と連携し、生徒一人ひとりの状況に応じた生徒指導を行う。 ③共立女子中等高等学校・共立女子短期大学をはじめとした大学との連携・協働を強化する。</p>	<p>①生徒・保護者の共立女子中等高等学校に対する満足度を向上させる。 ②教育環境の質的向上を図る。 ③学校運営上の危機管理を適切に行い、生徒の安全を確保する。 ④学習・教育環境の充実に向けた中長期的な施設整備計画を策定する。</p>
責任者 主となる委員会・会議 主となる事務局	<p>中高校長 教務部 国際交流部 進路指導部 情報システム管理委員会 中学高等学校事務室</p>	<p>中高校長 教務部 進路指導部 生活指導部 中学高等学校事務室</p>	<p>中高校長 総務部 中学高等学校事務室</p>	

短期	<p><b>事業計画</b></p>	<p>事業計画</p>	<p>事業計画</p>	<p>事業計画</p>
----	--------------------	-------------	-------------	-------------

※評価指標は優先順位に応じて列記している。

# <Ⅲ. 共立女子第二中学校高等学校>

理念等	建学の精神：「女性の自立と自活」 校訓：「誠実、勤勉、友愛」 教育指針・行動指針：「リーダーシップの共立」
	共立女子第二中学校高等学校ビジョン：「『咲き誇る未来』を目指して、社会に広く貢献できる自立した女性を育成する」

## 誰もがセルフリーダーシップを発揮し、自分らしい物語を紡げる中学校高等学校

長期	<p>Ⅲ-1. 入学者受入れ</p> <p>「リーダーシップの共立」を掲げる本校の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー・ポリシー）を明示し、方針に基づいた入試により入学者を受け入れる。</p>	<p>Ⅲ-2. 教育改善・教育の質的向上</p> <p>育成を目指す資質・能力に関する方針（グランド・エデュケーション・ポリシー）、学習課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を明示し、生徒の多様な個性を尊重しながら学力を向上させつつ、セルフリーダーシップを養育する人材を養成する。</p>	<p>Ⅲ-3. 生徒支援・進路支援</p> <p>教科指導と課外活動において、一人ひとりの生徒の心と体の健全な成長を見守り、生徒が自律的に現在及び将来における自己実現を図っていけるよう支援を行う。また、一人ひとりの生徒がそれぞれ自己と向き合い、学びと社会を知り、主体性に針路について考え希望針路の表明を図っていけるよう支援を行う。</p>	<p>Ⅲ-4. 管理運営</p> <p>「共立女子第二中学校高等学校ビジョン2032」の達成に向けて、戦略的かつ機動的な管理運営を行う。</p>
----	--	---	---	--

### <第3期中期計画> [2023年4月～ 2028年3月]

中期	<p>①第二中学校、第二高等学校ともに、入学定員の確保を目指し、着実に入学定数を確保する。</p> <p>②受験者数を拡大するために、「リーダーシップの共立」を核とした差別化施策を推進する。</p> <p>③募集要項の透明化の推進、検証を行い、学力、入試、入試後の学習等に関する施策を確保する。</p>	<p>①第二中学校は、基礎学力を定着させるために生徒の学習習慣の定着、学習意欲の向上を図る。</p> <p>②第二高等学校は、カリキュラム・ポリシーと生徒の進路等を検証し、検証結果に基づいた改善を行う。</p> <p>③総合的な能力の向上を図る。</p> <p>④学習の自律化を促すためのセミナー、講習等を実施する。</p>	<p>①心身の健全な成長に向けて、適切な支援を行う。</p> <p>②生徒会委員会、クラブ等の活動において、生徒の自主性を引き出し、一人ひとりの能力を発揮できる機会を増やすことで、自己肯定感を高め、一人ひとりの針路を明確にする。</p> <p>③外部プログラムを通してキャリア形成を行い、生徒一人ひとりの針路を実現する。</p> <p>④共立女子大学・共立女子短期大学をはじめとした大学との連携を強化する。</p>	<p>①生徒・保護者の共立女子第二中学校高等学校に対する満足度を向上させる。</p> <p>②アンケート等に基づいた特色ある教育を展開するため、教職員の意欲向上と資質向上を図る。</p> <p>③八王子キャンパスの施設を整備し、有効活用する。</p>
中期	<p>責任者 二中高校長 二中高将来構想委員会 入試広報部 入試制度検討委員会 第二中学校高等学校事務室</p>	<p>二中高校長 二中高将来構想委員会 国際交流委員会 情報システム委員会 第二中学校高等学校事務室</p>	<p>二中高校長 生徒部 進路指導部 教務部 第二中学校高等学校事務室</p>	<p>二中高校長 二中高将来構想委員会 第二中学校高等学校事務室</p>

[付録]4

短期	<p>事業計画</p>
----	-------------

※評価指標は優先順位に応じて列記している。



# <V. 共立女子学園>

理念等	<p>建学の精神：「女性の自立と自活」 校訓：「誠実、勤勉、友愛」</p> <p>教育指針・行動指針：「リーダーシップの共立」</p> <p>共立女子学園ビジョン：「社会に広く貢献できる自立した人材を育成するための教育を各設置校において適切に行う社会に広く貢献できる自立した人材を育成するために、学生・生徒等の支援を適切に行う教育の継続維持のために財政基盤を確保し収支の均衡を達成する」</p> <p>ステークホルダーとのコミュニケーションの充実を図る</p>
-----	--

## 各設置校がビジョン2032を達成するために、財政的・人的・物的資源を整え、「リーダーシップの共立」を確立する

長期	<p><b>V-1. 財政</b></p> <p>共立女子学園の継続維持のため安定した財政基盤を確立する。</p>	<p><b>V-2. 組織・人材</b></p> <p>教職員一人ひとりが「共立リーダーシップ」を發揮し、やり甲斐を持って能力を生かし、活躍できる職場環境を整備する。</p>	<p><b>V-3. 施設設備</b></p> <p>「リーダーシップの共立」を教育方針に掲げる学園にふさわしい、教育研究環境を整備し、新たな価値が創出されるキャンパスにする。</p>	<p><b>V-4. 法人ガバナンス</b></p> <p>永続的な発展と成長に向けてガバナンスを發揮する。</p>
----	---	---	--	--

### <第三期中期計画> [2023年4月～ 2028年3月]

中期	<p><b>中期計画</b> 【評価指標】</p> <p>①学費の配分と執行管理を適切に行い、決算において基本金組入前当年度収支差額を収入超過にする。 ②中長期的な資金需要に基づいて特定資金の積立を計画的に行う。 ③安定した財政基盤の確立のため適切に収入を確保する。</p> <p>①中長期的な総人件費管理を行い、「共立リーダーシップ」を發揮できる人材を確保し、適切な人員配置を行う。 ②公平で透明性のある人事評価制度を確立する。 ③新たな人事・給与制度を導入する。 ④全ての事務職員がそれぞれの「共立リーダーシップ」を發揮するために、必要な能力・資質を向上させるためのSDを実施し、自律的なキャリア構築や学び直しを促進する施策を実施する。 ⑤働きやすい事務局の職場づくりのため、組織運営等で課題を可視化し、解決方法を推進する。</p>	<p>①中長期的な施設整備計画に基づき、計画的な修繕及び改修を実施する。 ②神田一ツ橋キャンパスについて、ランドデザインに基づき再構築計画を推進する。 ③八王子キャンパスについて、必要不可欠な施設設備を確保し、施設整備計画に基づき整備する。 ④各研修センターについて、施設整備計画に基づき整備する。 ⑤教育研究の質向上や教職員の業務効率化に資する情報インフラの整備・運用・改善を推進する。</p>	<p>①ステークホルダーの信頼を確保し、教育研究活動の一層の推進を図るため、最適なガバナンス体制を確立する。</p>	
責任者	理事長	理事長	理事長	理事長
主となる委員会・会議	財政運営会議	学園将来基本構想委員会	学園キャンパス整備検討委員会	学園将来基本構想委員会
主となる事務局	財務課	人事課	情報システム課	総務企画課

短期	事業計画	事業計画	事業計画	事業計画
----	------	------	------	------

※評価指標は優先順位に応じて列記している。

リーダーシップを  
発揮する人生か、  
そうでないか。

リーダーシップの共立®

共立女子大学  
共立女子短期大学  
共立女子中学高等学校  
共立女子第二中学校高等学校  
共立大日坂幼稚園